

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	古川敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①「学生の授業評価アンケート」により受講生を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「関心のある内容である」を含めすべて5%未満であった。ほとんどがキリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基礎となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明した。第2に、評価基準を明示した。授業の質評価を見ると、<評価基準は明らかであった>の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「29、40、29」で98.98%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「0、0」で0%、無回答が「1」あり1%であった。</p> <p>②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用した。これをもって、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。</p> <p>③総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや例えば、可能な場合には看護と関係のあるものを用い、キリスト教の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。</p> <p>④期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> <p>①成績を見ると、平均値は80.11点であり、再試対象は0名であった。分布的には、90点以上が16%、89～80点が20%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は36%であり、79～70点が62%、69～60点が2%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは64%であった。ただ、69～68点は「可」で何とか標準レベルに達したものであった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。</p> <p>②学生の<知識><理解>に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「21、54、22」と「23、44、31」で97.97%と98.98%となっており、それぞれ否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)に「2、0」と「1、0」で2.02%と1.01%であった。アンケートが試験前の実施であったことで少し差異があるが、ほぼ成績分布と平衡が取れていた。</p> <p>③学生の専門分野における達成自己評価については、思考判断に関する<検討する力><判断する力>に関しては、肯定的回答は「14、39、40」と「12、38、40」で93.93%と90.90%であったのに対し、否定的回答は「6、0」と「8、0」で6.06%と8.08%となった。</p> <p>④同じ専門分野でも意欲関心に関する<意欲>では肯定的回答は「14、33、42」で89.89%であり、否定的回答は「10、0」で10.10%であった。</p> <p>⑤さらに専門分野の技能表現に関する<技術><コミュニケーション、表現力>の習得では、肯定的回答はそれぞれ「11、30、42」「12、35、37」で83.83%と84.84%であったのに対し、否定的回答はそれぞれ「15、1」と「14、1」で16.16%と15.15%であった。</p> <p>⑥学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「11、46、33」で90.90%であったのに対して否定的回答は「8、1」で9.09%であった。</p> <p>⑦以上、専門分野の技能表現では、否定的回答が約16%となり肯定的回答は約84%に留まった。知識理解では、否定的回答は約2%で、肯定的回答が約98%であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域を超えた学習上、その根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、<知識><理解>に関してはいずれも2%台であった。専門分野の学習においては、思考判断の<検討する力><判断する力>に関してはそれぞれ6.06%と8.08%、意欲関心の<意欲>では10.10%、技能表現の<技術>習得では16.16%であった。その他、<コミュニケーション、表現力>の習得では16.16%、態度に関しては9.09%であった。このように非専門と非技能表現の分野では2%台から9%台で10%未満であり、専門と技能表現の分野では6%台から16%台と開きがあり20%未満に留まった。つまり、肯定的回答は非専門と非技能表現の分野では90%以上、専門と技能表現の分野では80%以上であることから、授業内容は妥当であると考えられる。</p> <p>②DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価を見ると、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための<知識><理解>、及び、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための<態度>、これら非専門と非技能表現の分野では否定的回答が10%未満であった。これに対し、課題を解決するため状態を把握し論理的に思考・判断できる<検討する力><判断する力>、及び、社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける意欲を持っているという<意欲>、並びに、<技術>の習得という専門分野と、適切なコミュニケーションを図り関係を形成する<コミュニケーション、表現力>に関しての否定的回答は20%未満に留まった。つまり、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野では90%以上、専門と技能表現の分野では80%以上であることから、授業内容は妥当であると考えられる。</p> <p>③以上から、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>① 学生の担当教員への11の意見を見ると、「説明が分かりやすかった」「個別の対応がとても助かりました」など肯定的なものが9件あるが、「話が少しわかりにくく感じた」という否定的なものが1件、また、「練習問題の様なものが欲しい」という要望的なものが1件あった。</p> <p>② 学習量の評価を見ると、<授業の記録>につき、「記録しなかった」との回答者が6名いた。<1回30分以上の予復習>を「全く」しないという回答者がそれぞれ70名以上であったが、22名が挙げた理由の内、「授業で理解した」「必要がなかった」「時間がなかった」以外に「仕方が分からなかった」という回答者が6名いた。</p> <p>③ 授業の進め方に関する授業の質評価を見ると、<学習の範囲や課題は明らかであった>という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「26、43、29」であり、否定的回答は「少し」「全く」(以下同じ)とも「0」であった。<理解しやすい>という項目では、「18、36、39」で、否定的回答は「5、0」であった。<学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答は「20、38、30」で、否定的回答は「8、2」であった。中でも最も否定的な回答が多いのは<参加の機会>で「13、4」で、肯定的回答も「11、30、40」と下方の数字が大きい。</p> <p>④ 以上から知識・理解を得られるような改善に向け、1)記録しない学生への対応として板書の内容をプリントして配布すること、2)予復習の方法を具体的に指示すること、3)毎授業ですべての学生から回収しコメントして返却する「自己学習記録」(A4)から判断して、コメント以上の個人的指導の必要な学生に特別な援助をすることが考えられる。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>① 授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にすることは今後も必要である。学生の目的達成のために、成績を見る限り「不可」の学生はいなかったが、何とか標準レベルの目標に達しているものが2名いた。この数値は、<知識><理解>に関する達成自己評価で否定的回答が「少し」「全く」の順に「2、0」「1、0」であったし、また、学生の担当教員への意見で「話が少しわかりにくく感じた」「練習の様なものが欲しい」と否定的意見や要望した学生が2名いたことも数字上は符合している。つまり、この「2」という数字が「0」になるための対策が、全体の知識理解の底上げになると思われる。</p> <p>② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。学生の担当教員への意見に「キリスト教への理解を深めることができました」とお礼を添えるものや「楽しかった」というものが11の意見の内9件を占めたのも、この利点の反映と思われる。しかしこの科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での「的確に判断する力」及び「その学びを深めたいと意欲をもつ」ことの基盤となるものである。つまり、この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。学習量の評価で「予復習の時間が30分以上」なかった学生が70名以上であり、<授業の課題以外に学習していない理由>としてその予復習の方法が分からないと回答した学生が22回答者の内、6名であったことから、<6. 授業の進め方とその向上について>の④に記載した改善策に取り組み実学としての成果を上げていくことが必要である。</p> <p>③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にすること、授業を進めるに当たっては、板書の内容をプリントして配布すること、予復習の方法を具体的に指示すること、学生から回収しコメントして返却する「自己学習記録」からコメント以上の個人的指導の必要な学生には特</p>
------------------------------	--

学科	看護
氏名	古川敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
宗教と人間	2	前期	選択	はい	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 「学生の授業評価アンケート」により受講生を見ると、受講動機としては「単位数を確保する」が100%であるが、「関心がある内容である」と「友人が履修している」ためがともに66.6%であり、その他「資格取得に必要である」が33.3%であった。動機は概して高いと言えるが、キリスト教以外に関する知識や理解は概して知らないのが受講生の現実である。そこで、宗教が人間にもたらず豊かさを説明し、宗教を学ぶ意義を明らかにした後、日本における代表的な宗教、すなわち、神道、仏教、キリスト教を時代順に説明した。これらの説明を終わった後で、イスラム教を取り上げた。</p> <p>② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講生が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用した。これを授業への参加意識を高める工夫の一つとした。</p> <p>③ 少人数の構成であったので、関心をもてるように、対話を多くし、質問を引き出しそれに答える形で進行することにした。</p> <p>④ 身近な学習となるように、中間的まとめとして、宗教の映像を用い、それまで学んだことと実際の生活とがどのように結びつかを自ら考え確認することができるようにした。</p> <p>⑤ 期末試験では、その準備の過程で、受講生が宗教に関して知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>① 成績を見ると、平均値は96.66点であり、再試対象は0名であった。分布的には全員が90点以上で理想的レベル(概ね80点以上)に達した。これは、少人数で、毎回、知識習得と理解の可否を口頭で確認し、質問に答える時も全員が知識を確認し理解を深めえることができるように常に工夫し、学生も関心を持って授業を受け、十分な準備をして試験に臨むことができたことの結果であると評価できよう。</p> <p>② 学生の達成自己評価を見ると、<知識習得><専門分野での課題を検討する力><規範習得>に関しては「わりにそうだと思う」と100%の学生が肯定的に回答している。これ以外に「わりにそうだと思う」という回答が66%であったのは<意欲><コミュニケーションと表現力>の事項であった。同じ肯定的回答でも「かなり」「わりに」「まあまあ」とそれぞれが33%であったのは、<理解><専門分野での確に判断する力><職業選択の参考になった>という事項であった。また、「まあまあ」が66%であったのは<専門分野での技術>の事項であった。全体としては、<自分なりの目標を達成した>という事項に、100の学生が「わりにそうだと思う」と回答している。</p> <p>③ 記録作成については、<自分のノートを作成した>と100%の学生が回答している。予復習の時間を見ると、100%の学生が30分以上の予習を1回し、66%の学生が30分以上の復習を1回している。</p> <p>④ 以上、各自が自己のノートを意欲的に作成し、各自の目標を「わりに」達成したと思っており、回答に否定的な事項は0であったことから、全体的面でも知識理解の面でもわりに達成されていると言える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の1つの科目として、専門分野の諸領域を超えた学習上、その根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答は、非専門と非技能表現の分野と専門と技能表現の分野を問わず、0であった。「若者の宗教離れ」という現代に、神道、仏教、キリスト教、イスラム教という日常的にそれほど接触しない様々な宗教を21世紀の生身の人間と関連させて理解する関心を、学生が15回の授業のすべてにおいて「わりにそうだと思う」という程度に維持することは大変なことである。それをなし遂げることが出来たということに、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価を見ると、豊かな教養のもと社会を多面的に捉える視点と知識習得の項目である<知識><理解>、及び、社会の一員としての自覚・責任・自己研鑽の態度に関わる<規範習得>という非専門と非技能表現の分野でも、また、課題についての確に把握し支援方法を<検討する力><判断する力>、及び、人々のいのちや生活さらに福祉的課題に関心をもち解決への創造的支援を探求する<意欲>、並びに、対人援助職としての基本的専門的<技術>の習得という専門分野と、他者と関わる基本的なコミュニケーションスキルを習得する<コミュニケーション、表現力>に関する事項のいずれにも、否定的回答は0であった。肯定的程度には差があるが100%の学生が肯定的回答をしたということから、DPの位置づけとしても内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ 以上から、内容的には問題はないと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>① 学生の担当教員への意見は1つだけであり「ユニークで授業が楽しかった」というものであった。しかし、100%の学生が30分以上の予習を1回行い、66%の学生が30分以上の復習を1回行いに留まった。その「課題以外に学習していない理由」として、66%の学生が「学習の仕方」乃至「復習の仕方」が分からなかったことを挙げている。</p> <p>② 授業の進め方に関して授業の質評価を見ると、否定的な回答は0であった。<学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた>という事項については、66%が「かなりそうだと思う」と回答し33%が「わりにそうだと思う」と回答している。<参加する機会>という事項では、「かなり」「わりに」「まあまあ」とそれぞれ33%の学生が回答している。<理解しやすい>という事項に関しては、66%の学生が「わりに」と回答し33%の学生が「まあまあ」と回答するに留まった。少人数でしかも同じ席に固まっているおり、教員としては頻繁に平等に参加を促していたと思っても、学生の側はそう感じるとは限らない良い例であり意外であった。同様に、<評価基準>と<課題>等を明確にしたつもりであったが、前者は66%が「わりに」で33%が「まあまあ」に留まり、後者は33%が「わりに」で66%が「まあまあ」と回答するに留まった。</p> <p>③ 以上の現状を踏まると、1)評価基準と課題を繰り返し明示し理解されていることを幾度か確認すること、2)<質問と回答><参加の機会>は、理解を助けることから、少人数の場合にはより活用すること、3)予復習の方法を明示することが改善策として必要と思われる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>① 授業準備として、若者の宗教離れで宗教が身近でないことから、一層身近な事柄に翻訳して講義する必要がある。また、評価基準と課題は、最初に明示するだけでなく、折々に喚起し明示する必要がある。</p> <p>② 総合人間科学の1つの科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。「学生の授業評価アンケート」に否定的回答は0%であったが、学生の<目標達成>のためには、現在は「わりにそうだと思う」という回答が100%であったが、これが「かなりそうだと思う」という回答になるようにするには、<知識>が習得されたことを確認しながら進め、誤解を修正することが必要である。特に新しい知識の習得に当たってはその確認が一層重要である。それには<参加の機会><質問に答える機会>が提供されていると学生が意識でき活用できるようにすることが重要であり必要である。</p> <p>③ 以上から、内容は妥当であるが、方法論としては、明示と整理と確認の作業を繰り返すこと、身近なことに翻訳すること、参加の機会と質問に答える機会を活用できるようにすることが、今後の課題と思われる。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	中島俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学	1	前期	必修	はい	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○			

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>心理学の分野はすごく広く多岐にわたっている。基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「同一性の形成」に関わる問題だからである。昨年度の大きな課題は集中力と興味関心が切れて寝てしまう学生への対応であった。このため講義途中で「質問会」形式を取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。本試験は記述式がその中心であるが、記載の内容もしっかり書かれており授業者の満足を得るものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「分かりやすかった」「映像が面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これに関する「授業者の回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく先生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業に臨む前の学習の促進を図るための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いのではないかと授業アンケートの結果から言える様である。学習量を高める工夫の一つとして予習の課題設定を今後試行してみたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人が存在する。睡眠学習者0を達成するのは容易ではない。映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地は大きい。がんばりたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護学科
氏名	村上 太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
行動科学		前期	選択	はい	

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>選択科目であるため、講義内容に関心を持っている学生または単位数の確保といった動機が主であると思われるが、授業を通して内容に興味を持ってもらえるようなテーマ・取り扱う内容を工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>「到達度自己評価」においては、学生評価の平均値がすべて3点を上回っていた。分布としては、「まあまあそうだと思う」と「わりにそうだと思う」に8割以上の学生が集中していることがうかがえる。とはいえ、様々な学部・学科の学生が非常に多く受講していることから、それぞれの専攻を勉強している学生それぞれの受講ニーズを等しく満たすことは非常に難しいため、この程度の平均値は比較的高いものではないかと考える。</p> <p>学習量としては、授業外での復習は、学生の自主性に任せてはいるものの勤めていた。その結果、復習を度々行っている学生もいた。授業の中で完結できるような内容を心がけていたため、「学習量の評価」としては適切であると考えている。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DPからみた内容的妥当性 本科目は選択科目であり、学生の受講動機をふまえると難しい部分もあるが、学生も一定の成績をあげていることから、内容的には妥当であると考えている。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」に関しては、すべての項目において平均値が3点以上あり、中には4点を 超える値が示されたものもあった。とくに、「説明の理解のしやすさ」は様々な学部・学 科の学生からの評価として3点後半から平均値が4点超にかけて高い値であることは評 価に値すると思われる。今後もこの水準を落とさないように進めていきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>講義に対する学生の動機付けを維持することは変わらずに課題であると考えられるが、 授業内容を工夫していくことが今後も重要である。 授業内容、進め方に関しては高い評価を得ていたと思われるので、今後もこの水準を 維持したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康科学	1	前期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今回の受講動機をみると、ほとんどの学生(99%)が「必修科目である」と答えていた一方で、「資格取得に必要である」、「関心のある内容である」と答えた学生はそれぞれ、3.1%、4.2%とほんのわずかしかなかった。これは、科目名からどのようなことを学ぶのかを学生がイメージしにくかった結果であろう。授業においては、学生の興味・関心を引きつけられるように、健康に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。</p> <p>昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は75.5(±8.3)点であり、再試対象者は5名であった。成績分布別にみると、90点以上が3%、89～80点が37%、79～70点が39%、69～60点が22%であった。全員が標準的レベルに達しており、そのうち40%の学生が理想的レベルに達していた。</p> <p>学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が17%、「わりにそうだと思う」が50%、「まあまあそうだと思う」が30%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.8)。</p> <p>「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が19～30%、「わりにそうだと思う」が45～48%、「まあまあそうだと思う」が22～33%と、ほぼすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.8～4.1)。</p> <p>「思考・判断(DP2)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目4と5)についても、「かなりそうだと思う」が15～18%、「わりにそうだと思う」が45～57%、「まあまあそうだと思う」が23～40%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.7～3.9)。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果より大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「知識・理解(DP1)」、「思考・判断(DP2)」および「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、95%以上の学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP, CP, カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業の質評価は、平均値が3.3～3.8であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 しかしながら、ごく少数ではあるが、「説明がわかりづらかった」や「ゆっくり教えて欲しい」という自由記述もあったことから、このような学生に対してはオフィスアワー時に再度説明する機会を設けるようにしたいと考えている。 また、学習量の評価についてみると、約65%の学生が1回30分程度以上の予習・復習をまったく行っておらず、また、約75%の学生は授業課題以外の学習に取り組んでいなかったことから、学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習 I	1	前期	選択	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。</p> <p>球技スポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、毎回メンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点(課題)などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は82.3(±6.3)点であった。成績分布別にみると、90点以上が8%、89～80点が71%、79～70点が13%、69～60点が8%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、約80%の学生は理想的レベルに達していた。</p> <p>学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が36%、「わりにそうだと思う」が46%、「まあまあそうだと思う」が17%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値4.2)。</p> <p>「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が22～31%、「わりにそうだと思う」が41～46%、「まあまあそうだと思う」が22～28%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.8～4.1)。</p> <p>その他、「思考・判断(DP2)」、「意欲・関心(DP3)」、「技能・表現(DP5)」、「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ3.8、3.8、3.7～4.0、3.4であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた。このことは、球技スポーツにおいて、個人またはチームとしての技能の向上には、「思考・判断」、「意欲・関心」、「態度」のすべてが関係していることを示唆している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる科目である。授業では体力向上を目指した運動(ストレッチング、筋力づくり運動およびスタミナづくり運動)の実施方法を実技を交えて解説した。また、球技スポーツ(バスケットボール、バレーボール、フットサル)の技術練習およびゲームを行った。「全体を通した」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。</p> <p>今回は、該当するDPとしては、「知識・理解(DP1)」のみとなっていたが、上述したように、本授業ではすべてのDPが関連し合っている。よって、その他のDPも含める必要がある。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業の質評価は、平均値が3.5～4.0であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。</p> <p>本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法を調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。</p> <p>また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中にはランニングや筋力トレーニング、ストレッチを行っていた者も数人おり、また運動量を増やすことを意識したという者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>概ね目標は達成できたと考える。</p> <p>今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	河岸重則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講生は高校時代に「化学」を履修した人が少なく、また「化学」に苦手意識を持っている人が多い。加えて、ほとんどの受講生が「単位確保」を目的としての履修のため、授業内容を易しくて、日常意識していないが注意してみると「化学」が生活の中にたくさん存在していることを理解し関心をもってもらうことを目的とした。</p> <p>②上記の目的のため講義内容をその時間内に理解することに重点をおいているので特に「予習・復習」を求めている。講義の開始には前回の内容の「キーワード」の復習から行なった。</p> <p>③数回、確認テストを行い、理解度のチェックを行なった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①試験を資料持込で行い、その資料を理解しているなら点数のとれる形式で行なった。平均点は90点以上であった。</p> <p>②身の回りの化学から受講生のおのおのが自分でレポートの課題を決定して提出させたが、全員きちんと仕上げていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「一般教養科目」であり、また選択科目、学科横断的科目である。試験の点数、レポート内容から、内容的に妥当であると考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の発言を引き出すような工夫を検討したい。</p>
--	-------------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>一般教養としての化学の内容として特に問題はないと考える。化学は範囲が広いので、学生に意見を聞いて学生がさらに関心を持つような講義項目を加えるのも課題かもしれない。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と環境	1	前期	選択	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①授業を履修する際にシラバスの記載を参考にした学生が25%であった。本科目の一般教養科目としてのカリキュラム上の位置づけと講義概要を理解してもらったため講義1回目にパワーポイントを用いシラバスの説明を行なった。</p> <p>②受講動機として関心があると回答した学生が50%、単位確保のためと回答した学生が75%であった。本科目は保健福祉学部で開講している科目で、看護学科の学生は必須科目に縛られているため選択科目を受講する学生が少ないのが現状である。したがって講義には身近な環境問題や専門領域につながる環境と健康問題をとりあげた。</p> <p>③レポート課題には評価項目だけでなく点数配分を示した。また、課題はグループ討議のあと十分な時間をとり提出させるようにした。</p> <p>④教科書を使わず資料を配布しているため、学生には適宜重要事項を資料に記載するよう指示した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①総合評価の平均値は85点であり、受講者全員が理想的レベル(80%以上)に達していた。</p> <p>②学生の知識理解の達成度は77%、学生の知識理解の到達度自己評価も平均値が4.3と学生が知識を確認、修正、新たに得ることができたと思うと回答している。また、思考判断の到達度は100%、学生の到達度自己評価平均値は4.0で課題を検討する力を得たと回答している。</p> <p>③課題レポートの評価基準は明確に示したため学生の授業の質評価平均値は4.0であった。また、自分の意見をまとめる、話し合うという授業の質評価平均値、コミュニケーション力や表現力を高めることができたという到達度自己評価平均値はともに4.0であった。これらはレポート提出前に課題解決に向けたグループ討議をいれた結果と思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 この科目は一般教養科目であり選択科目である。一般教養と基礎知識を培い、課題解決をするための方策を学ぶための科目である。学生の成績も良く内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断の到達度も理想的レベルに達しており内容は妥当であったと思われる。</p> <p>③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>受講者の半数が1回あたり予復習時間を30分以上とらなかったと回答している。図書の利用については、図書館を利用するよう講義の中で学生に指導したためか全員が図書を利用していた。しかし、インターネットの検索などは行なっていなかった。とくに、課題解決に向け、前述の方法を積極的に活用し、時間をかけ取り組むよう促したい。また、講義中に学習をする時間を確保するなどの工夫が必要と思われる。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>一般教養科目としての本科目の位置づけから、一般教養と基礎知識を培うという目標は達成できた。また、思考判断の達成度は予想以上に高かった。これは、グループ討議が効果をなしたためと思われる。学生の到達度自己評価からみてもグループで知識を共有し課題解決に向け思考するという方は、学習到達度をあげたと評価できる。ただ、学生の予復習にかける学習量が少ないため、次年度は図書・インターネットの活用をさらに促すとともに学習時間の確保をはかり学習量を増やす工夫をしたい。</p>
------------------------------	---

学科	看護
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報科学演習I	1	前期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本授業は、ICTの基礎スキル修得を主目的とした授業であるが、ソフトウェアの基本的な使い方は高校時代に学んでいる学生が多く、また日々進化し続けるICT社会において、使い方そのものはあまり意味をなさない。むしろPCを用いて何を表現できるかが社会人基礎力として重要である。従って、授業では文書作成やデータ活用において、学生生活で必要となるPCによるレポート作成技法やビジネススキルの向上を目標としながら、その中で必要なICTスキルを修得させることに重点を置いた。</p> <p>受講動機では、1年生前期の必修科目ということもあり、「必修科目である」96.7%と突出した数値となっている。その他の項目の数値が極めて低いことから、カリキュラム全体における本科目の位置づけや狙いについて全く理解せず、単に必修であるので受講したということが伺える。履修計画前に十分な理解を促すことは基より、第1回目授業におい手も科目の位置づけなどを十分説明する必要性があったと思われる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は78.1点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「優」の学生が54%、「良」も加えると85%に上っており、授業目標であり理想的なレベルを達成できたといえる。</p> <p>学生の到達度自己評価でみると、「コミュニケーション力や表現力」と「職業選択」を除く項目において「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」が多くの比率を占めているが、成績評価の結果からみると、もう少し高い数値であってもよいと思われる。学生が修得できている知識やスキルに対して、学生自身がそこまで確信をもてていないことが示唆されている点は今後の反省点である。</p> <p>「コミュニケーション力や表現力」については、個別でのPC活用による実習がメインの授業構成であるため、この項目に該当する授業構成を実施できていないことが反映されている。科目の特性上、SNSによるコミュニケーション力を取り上げたり、課題に取り組む際にグループ学習を取り入れるなど、今後の検討課題としたい。また、「職業選択」については、看護学科というもあり卒業後の職業目的が明確に絞られていることが反映されているのではないかと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられ、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する1年生の前期に実施される必修科目である。受講生が入学直後であり、まだ完全にDP、CP、カリキュラムマップを理解し切れていない中で、学生生活だけでなく社会人基礎力としても必須のICTスキルの重要性を理解させるよう工夫し、学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 授業評価から「コミュニケーションや表現」に関する達成度が他の項目に比べて低かったが、SNSが主流となっている現代社会において新たなコミュニケーションのあり方などを内容に組み込む必要がある。また、思考判断に関しては、与えられたことを指示された手順に沿って行うことは得意であるが、多少の変化を加えた際に自分で思考し工夫していく点では問題を抱えているが、成績の面では内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、多少改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「コミュニケーションや表現力」の項目が他に比べて低くなっており課題を残した。PCによる実習科目であるため、どのように授業に取り入れて改善するかについては難しい面もあるが、次年度に向け検討していきたく。</p> <p>また、与えられたテーマ、課題に対して、PCをどのように活用しながらその問題解決に取り組んでいくかという点については、そのことに主眼を置いた授業展開を心掛けていたが、授業評価等を見ても決して高い数値とは言えない状況であった。成績評価の観点からは、このことについて十分な結果を残していると言えるが、そのことを学生が実感できていない点は問題が残った。どのように実感させていくかについては、検討したい。</p> <p>学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活あるいは社会人基礎力として必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。しかし、与えられたテーマや課題に対して、その問題解決のためにPCをどのように活用すべきかという点では、学生に十分な実感を持たせることができなかった。また、コミュニケーション力といった点でも、改善の余地を残した。</p> <p>以上から、課題提示の工夫やグループ学習導入などで改善を図っていきたく。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学概論	1	前期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機を見ると、「単位数を確保する」69.0%、「先輩に勧められた」20.7%であった。資格取得には直接結びつかない科目であるためか。ただ、保健福祉学部3学科同時開講の科目のため、看護に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>前期試験の平均点は69.78点、再試対象者は5名であった。また、理想的レベル(80点以上)に達した者は6名であった。知識理解を文章で論述してもらう問題形式であったが、文章の書き方そのものが十分身につけていない答案が一部見られた。学生による到達度自己評価については、知識理解の自己評価と成績に相関関係が見られる。また、DPIには加えていないが、態度(職業倫理や行動規範等)についての自己評価が高い。これは「法学概論」という科目そのものの特性に由来しているものと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないことから、どうしても「単位目当て」の学生が多くなり、動機付けには苦慮している。しかし、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、豊かな人間性と社会性を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.6であり、レジュメ作成等の努力がある程度報われていると思われる。他方、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が2.9と低い。かつて質問を受け付けていたら、質問が殺到し、担当教員の体調や他の業務に支障が出たことがあったので、教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方策を考えたい。学生の意見として、「教科書を買う必要があったのかな…と思いました」というものがあつたが、講義内容はある程度教科書に準拠していること、授業で教科書そのまま読むのであれば、学生は授業を聞かなくなってしまうことから、教科書はむしろ予習・復習で活用してもらいたいと考えている。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考えられる。今後は予習・復習の習慣の定着と、学生からの質問を促す方策を検討したいと考えている。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	末廣幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語 I	1	前期	必修	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教科書「医療英語入門」に沿って、医療現場における会話の練習、医療の単語学習(病名、症状、薬剤、道具)、文法解説、リスニング練習を行った。②教科書にはリーディングのパートがなかったために、DVDを使用し、映画の医療に関連したシーンを鑑賞し、このシーンについての英文サマリーの和訳を行った。学生評価でも英文サマリーの和訳が楽しかったと評価が高かったのは、今まで全く予備知識のない医療関連の単語や表現の学習が主であったため、映画で場面設定に対する予備知識をつけて、和訳を行う作業が楽であったためと考えられる。また一般的に医療に関連していないと思われる映画にも、医療問題を暗示するものがあり、これも学生の関心を惹いた要因だと思われる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は97点、再試対象者は0名であった。特に標準偏差値は47名の学生がSに集中し、Aは3名であった。DPにおいても「自分なりの目標の達成」「知識の確認、修正、新たに得る」に高い評価を上げる学生が多かった。しかし、専門分野の項目や職業倫理、職業選択の項目では、評価のばらつきがかなりみられた。看護学科の性質上、英語の授業は選択必須科目という観点から、学生は単位を取得することに重きを置き、将来の職業とは直接的な結びつきを感じることができなかったことが第一の要因として挙げられると考えられる。学生には医療現場での国際化という観点から指導を行ったが、実際には学生の認識は高まらなかった。但し、医療英語の習得にはかなりの時間を要し、指導を行ったので、「専門分野で学びを深める」「専門分野で必要となる技術を身につける」の項目では比較的高い評価を挙げた学生が多く、学期末の高得点へとつながったと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性:自らが医療現場で役立てることができる英語の修得を目標にする。医療現場で使用される重要な英語表現を身につける。これはCPの『豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養を身につける』の目的にかなった内容となっており、内容的に妥当性があると考えられる。②DP行動目標からみての内容的妥当性:DPの特徴として「職業選択の参考」では高い評価を示す学生と低い評価を示す学生がおり、質問の趣旨を理解することに個人差がかなりあったと考えられる。看護学科における英語学習の観点から、DPの「職業倫理」「職業選択」の項目には質問方法の工夫が必要かと思われる。全般的に、学生はのびのびと英語学習を行っており、授業も楽しかったという意見が寄せられ、以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①授業の質の評価： オリエンテーションにおいて学生は評価基準や学習の範囲や課題について、よく理解していた結果が授業の質評価に反映されたと考えられる。②学習量の評価： 看護学科は実習、レポートなどで1年時より専門領域の学習が多いため、英語は授業内で復習すべき点を徹底させ、予習復習時間を短縮できるように配慮した結果、予習復習を行った学生が少なかった。但し、語学学習の習慣化を行うためには、一定量の宿題の必要性も検討すべき課題と感じた。③学修のための情報利用、図書館利用： 選択必須科目にもかかわらず、シラバスを参考および活用にした学生はクラスの約3分の1であった。英語学習に対する関心度の低さが示す数字なのか、あるいはシラバスを参考にする習慣が身につけていないからなのでは理解できないが、オリエンテーションでの授業に関する情報の徹底が必要であると感じた。図書館利用は皆無であり、情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>看護学科の教科書「医療英語入門」は医療現場で実際使用される場面や語彙が編集されており、学生が教科書に沿って学習することを容易にしている。また、卒業後も医療現場で英語が要求される場面においても、ハンドブックとしての使用が可能であり、役立つ情報を提供していると思われた。但し練習問題や会話練習の英語は若干、難易度が高く、学生が解答および暗記練習では苦勞しており、指導面でも更なる工夫が必要だと感じた。</p>
------------------------------	---

学科	看護
氏名	阿部 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅲ	2	前期	必修	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 看護学科必修科目であるため、受講動機は100%である。 ② 月曜日1時限目の授業であったが、授業開始10分前には教室に行き、体制を整えた。 ③ 例年受講生が少ないということ、栄養学科との合併授業ということを考慮して、使用テキストの選択に苦慮した。結果として、2007年当時、読売新聞西部本社編集委員であった那須省一氏が、英字新聞「The Daily Yomiuri」(現在のThe Japan News)に毎週掲載していたコラム「英語でさぐる」(Wandering through English)を読みながら、受講生の教養力を身につける準備に着手した。すなわち、注釈がないので、毎回受講者向けの詳細な注釈を作成し、授業の理解を得る努力をした。この準備には毎回3～4時間を要した。 ④ 上記テキスト以外に副教材資料として、「医療用語日英対照表」を用いて、医療用語に関する英語の語彙を増やす準備をした。(主に看護学科受講生用) ⑤ 英字新聞(The Japan News)から、食育と健康に関する記事を適宜ハンドアウトとして使用する計画を立てた。(主に栄養学科受講生用)</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成されなかった	やや達成されなかった			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>① 受講者2名中1名は4年生であったこともあり、この人数から各項目の具体的な判断は相当困難であると言える。さらに、最終評価は2名ともD評価であったため、「やや達成されなかった」という判断に至った。 ② 4年生受講生の欠席回数が5回と多く、授業に取り組む姿勢に難があった。 ③ 看護学科ということもあるが、当科目が項目(10)の「職業選択の参考になった」に関しては、2名とも「少いと思う」というを選択した。テキスト以外に医療英語を取り扱ったが、そのような結果は理解しにくい部分である。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本教科は「総合人間科学」の中の一つで、看護学科2年生の選択必修科目(1単位)である。「英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」より2単位を取得しなければならない選択必修科目である。また、看護学科のCPIにおける3つの到達目標である「英語を読み理解する能力を身につけることができる」「専門用語にも慣れ、理解できるようになる」「『医療と健康』についても理解することができる」(栄養学科と共通内容)ということに関しては、テキストの選択、プリントや新聞記事の適宜利用において、内容的には妥当であると思われる。</p> <p>② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 看護学科DP1-1の「豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけている」に関しては、テキストの内容がグローバルな時事問題が多いため、そのことを満たしている。また、DP1-2の「看護学分野での基礎的知識を修得している」については、「医療英語日英対照表」を配布して学習したことにより、英語に関する基礎的知識は幾分身についたと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>① 授業の質評価における(1)～(5)の各項目においては、「まあまあそうだと思う」と「かなりそうだと思う」に分かれている。 ② 学習量の予習復習時間に関しては、1回と4・5回に別れた。 ③ 情報利用のシラバスの活用については2名とも参考にしていたが、予め授業の計画を立てたか否かに関しては、1名は立て、もう1名は立てていなかった。 ④ 図書館等の利用に関しては、インターネットのホームページを検索し利用したのが1名で、他の項目は利用がなかった。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>① 総合評価で、もう少し努力を要する結果になっているのが気にかかる。努力のさせ方を再検討してみたい。 ② 情報利用・図書館利用のさせ方を工夫してみたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話A	1	通年	必修	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course focused on oral communication, specifically speaking and listening skills. The textbook was Interchange 1 (Cambridge), which included functional and grammatical targets in a variety of contexts. The students engaged in active learning exercises, including dialogue practice, information gap activities, listening challenges, and extensive role plays.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 6 criteria (attendance 30%, class work 25%, quizzes 13%, a short presentation 5%, homework 7%, and a final test 20%). The majority of assessment criteria focused on showing evidence of incremental improvements in oral communication skills. The majority of students in this course earned a grade in the 80-89 range.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Students showed progress in their interest and attitude towards English, as would be expected. Students are almost always quite eager to have an opportunity to experience active learning exercises and apply English in real world contexts. The specific skills acquired were both functional, in terms of basic vocabulary use and common grammar patterns, and attitudinal, in terms of new approaches to learning and basic life skills. As a result, students acquired new knowledge and understanding in this course (DP1).</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>My main goal for the next academic year will be to successfully transition the Nursing and Nutrition Departments to the curriculum and textbooks currently used in the English and Tourism Departments. This will include integrating relevant exercises and activities to the new curriculum and creating new assessment tools.</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>Improving evaluation and assessment methods requires constant updating to fit changing institutional and faculty objectives, specific course objectives, and the limitations set by class size and individual class dynamics. The following changes take these considerations into account. Streamlining and improving the use of class workbooks to encourage careful note taking and completion of homework will improve the accuracy of individual assessment and keep students focused on clear objectives for each class. The use of rubrics to assess class presentations and role plays would also streamline and improve assessment. Finally, the introduction of a simple peer-review process for assessment of presentations might transform passive observers into active participants in the learning process.</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話A	1	通年	必修	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course focused on oral communication, specifically speaking and listening skills. The textbook was Making Friends 2 (MacMillan Language House), which focused on building linguistic confidence through basic functional and grammatical targets in a variety of social contexts. The students engaged in active learning exercises such as vocabulary building, dialogue practice, information gap activities, listening challenges, and practical role plays.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on attendance 15%, class work 25%, homework 10% presentations 30% and a final test 20%. Students scored well on most areas of assessment, with the majority of students earning a grade in the 80-90 range.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Students worked hard to study vocabulary lists and fulfill the homework requirements every week. Most students showed progress in their interest and attitude towards English, and seemed to appreciate the usefulness of each lesson. Lessons were short and focused, so students could see individual improvement with each new functional target. The specific skills acquired were both functional, in terms of basic vocabulary use and common grammar patterns, and attitudinal, in terms of new approaches to learning and basic communication skills.</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Although I am happy with the results achieved through the current textbook, my main goal for the next academic year will be to successfully transition the Nursing Department to the curriculum and textbooks currently used in the English and Tourism Departments.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Current assessment is heavily dependent on class participation and performance. Since a considerable amount of homework is based on vocabulary and grammar self-study, students should be assessed more carefully and consistently on this work. Using class workbooks to encourage note taking and keep a careful record of completed homework would also keep students more focused on clear objectives for each class.

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	金銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハンゲル I	全学年	前期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○第二外国語として初級レベルの韓国語力をつけることを目標としている。開講後に行ったアンケートで(学校で実施する授業評価ではなく、別個に実施)「英語以外の言語に触れてみたい」や、「韓国旅行の際便利そう」などの積極性が見られる受講動機がある中「単位が欲しいから」との返答もなるなど、学生間の温度差があることが分かった。</p> <p>○受講姿勢に差がある60に近い受講生全員が興味と持つように「楽しい」授業を目指した。学生が興味を持ちそうな韓国事情や毎年好評のK-popなどを授業に取り入れ最後の授業まで韓国語への興味が持続するように勤めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	登録のみで授業に出なかった1名を除いた57名の成績平均は83.160で理想的レベルに達することができ、再試対象者もいなかった。					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価における到達度自己評価でも全設問満足度が高いという嬉しい結果となった。中でも「知識を新たに得ることができた」や「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の設問に特に高い満足度が見られ、講義が重点を置いている点と学生の満足とが一致する結果が得られた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ると内容的妥当性試験の結果で見られるように第二外国語として、目標としていた成果を挙げられたので内容的に妥当性があると考えられる。</p> <p>DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。</p> <p>まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>初級という授業の特徴上、学生間やり取りが難しいが、なんとか授業に取り入れる方法を考えたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>第二外国語として学習歴のない学生を対象に、基本となる話す・聞く・書く・読む力をつけることが目標だった。その目標を達成できたことにより次の「ハングルⅡ」に進むに不足しない実力がついたと思われる。そして授業評価の自由記述に「上級クラスがあれば進みたい」との意見があったことがこのクラスの成果の表れと言えよう。来年度も引き続きよい成果を挙げられるようがんばりたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護形態機能学 I	1	前期	必修	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>看護形態機能学は、医学・医療を学ぶうえで最も基礎となる分野(解剖学、生理学、生化学など)を含んでいます。学生さんがスムーズに看護学の勉強の第一歩を踏み出せるように、臨床との関連を話したり、できるだけポイントを絞って繰り返し解説するように心がけました。学期の直前に3名の講師で担当することになり、できるだけ関連する分野(神経と内分泌、血液と免疫、など)を重複しないように講義するなどの打ち合わせを行いました。講義スタイルの統一などを図る時間がありませんでした。そのため、授業評価アンケートの自由記述で「授業に統一性がなくて分かりにくかった」などの意見がありました。反省するとともに、次年度からはこのようなことがないように講師間で十分に話し合っ授業準備を行うことにします。また、授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数です。次年度のシラバスには、本科目の内容が看護学の勉強の根幹であることを強調し、学生さんがもっと関心をもって積極的に受講するように図りたいと思います。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	達成された	やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>期末試験の平均値は69.3点(最高93点)であり、60点未満の再試対象者は18名でした。理想的レベル(80点以上)に到達したひとは21名でした。再試対象者には問題を変更して出題しましたが、全員が60点以上であり、半数近くが80点以上でした。しっかり勉強し直したことが分かりました。最終的に全員が標準レベルには到達したと判断しました。</p> <p>3名の講師の範囲の平均点が、75.9点、59.3点、52.4点とばらつきが著しく、試験の難易度の差があったことを反省しています。次年度は試験についても講師間で十分に話し合っ問題を作成することにします。</p> <p>また、授業の内容からどうしても知識理解を判断する問題が中心になりますが、次年度は(知識をもとに総合的に推論するような)思考判断に関する問題も出題したいと考えています。</p> <p>授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、知識理解、思考・判断に観点において「ままそうだと思う」～「かなりそうだと思う」の達成感を示す回答が大多数です。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。上述したように、看護学を学ぶうえで最も基礎となる位置にあります。この内容を理解していないと、今後の看護学科での勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての仕事の全てにおいて支障を来します。</p> <p>試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPIにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの学習量を見ると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは約半数でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは1割程度でした。学生さんが興味を持てるような課題と出したり、予習復習のポイントを明示するなどを工夫するべきだったと反省しています。 自由記述では講師によって講義スタイルが違って困ったという意見がおおく、上述のように次年度からは講師間で十分な話し合いを行う予定です。また、配布プリントに関する意見も多くありましたので、皆さんの意見を参考に改良していきたいと思います。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は看護学科の学生さんが医学と初めて接する第一歩であり、これからの勉強の最も基礎となる内容が詰まっています。直前に担当教員が変更し、3名で担当するという変則の講義スタイルでしたが、学生さんはしっかり勉強して全員が標準的レベルに到達することができました。 講師3名の講義スタイルや試験の難易度などに統一性がなかったことが一番の問題であったと反省しています。 次年度は本科目の重要性をシラバスで強調して学生さんの興味や意欲をかきたて、講師間で十分に話し合って統一性をもたせ、分かりやすい講義を目指したいと思います。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
感染と免疫	1	前期	必修	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①高校から大学に入学したての学生にとり、看護師国家試験受験資格を得るための必須科目として前期で学ぶにはかなりハードな科目である。授業を履修する際にシラバスの記載を参考にした学生が43%と全体の半数にみえないことから講義1回目にシラバスの説明を行ない、パワーポイントを用い講義概要を提示した。</p> <p>②1年生は7月初旬に学外実習を控えている。そのため実習前に必要な基礎知識を習得できるよう講義計画をたてた。</p> <p>③学生のモチベーションを持続させ、授業に対する復習を促すために国家試験レベルのミニテストを講義8回目に実施した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 この科目は看護専門基礎科目で、専門科目につながるための看護に必要な基礎知識を培う上で必修科目となっている。看護師国家試験に関わる科目でもあることから初学者として1年生が身につける内容としては妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみても内容的妥当性 入学当初から学ぶ専門基礎科目としては学生には難しい科目である。しかしながら、国家試験を意識した内容であり、学生の知識到達度からみても内容は妥当であったと考える。思考判断については、達成度は比較的低かったが講義の方策を検討することで改善されると思われ内容としては妥当であった。</p> <p>③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①学生の学習理解を把握するために講義の間に質問の時間をとり入れたが、くわえて学生の授業の質の評価にあるように「自分の意見を言う、話し合う」などグループを組ませ意見交換をおこなう場を設けるようにしたい。</p> <p>②思考判断の到達目標を達成することができるよう事例をもとに解決を図るための方策を具体的に示し、学生に課題を与えるなど検討したい。また、学生の図書利用率が32%と低いことから図書館を利用した学習を積極的に取り入れるよう促していきたい。</p> <p>③課題レポートは、課題に対する学習時間を確保するため他科目の状況を把握し提出期限など決める。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>専門基礎科目としての本科目の位置づけから、看護に必要な知識はほぼ達成できた。しかし、課題を解決するための思考判断については充分目標を達成できたとはいえない。グループで意見交換を行なうなど上記に示した課題と改善策にそって講義の改善を行なう。学生からは難しいがわかりやすいという意見があがっている。今後も可能なかぎりわかりやすい説明を心がける。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護師が業務を行うためには絶対に必要であり、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。</p> <p>とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。</p> <p>疾病学各論Ⅰは、内科疾患と外科・婦人科疾患が範囲です。先端医療にも対応できるように、外科系は医療現場の専門医に講師を依頼しました。</p> <p>授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、1年生の看護形態機能学に比較すると「資格取得に必要である」「関心のある内容である」の割合が増えています。看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>期末試験(含・中間試験)の平均値は74.4点(最高96点)であり、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが34名だった一方、60点未満の再試対象者は7名でした。再試では3名が60点未満であり、不合格としました。このように学生間で点数差のばらつきが顕著でしたが、大多数の学生さんは標準レベルには到達していると判断しました。</p> <p>内科の平均点が74.0点(中間試験79.9点)で、外科・婦人科の平均点が63.0点と大きな差が出ました。試験の出題方法や難易度で統一性を持たせることが次年度の課題と考えています。また、授業の内容からどうしても知識理解を判断する問題が中心になりますが、次年度は(知識をもとに総合的に推論するような)思考判断に関する問題も出題したいと考えています。</p> <p>授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、知識理解、思考・判断に観点において「まあそうだと思う」～「かなりそうだと思う」の達成感を示す回答が大多数です。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。ここの内容を理解していないと、今後の看護学科での勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての仕事の全てにおいて支障を来します。</p> <p>試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは四分の一程度でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひと少数派でした。学生さんが興味を持って自ら検索するような課題と出したり、予習復習のポイントを明示するなどを工夫するべきだったと反省しています。授業後に学生さんより「配布プリントをゴシック体ではなく明朝体にして欲しい」と要望があり、途中から変更しました。授業評価アンケートの自由記述でも同様の意見がありましたので、次年度は最初からこのスタイルで印刷する予定です。外科系の外部講師の先生方の講義でレジメの配布を希望する意見も聞きましたので、次年度は先生方と相談したいと思います。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は臨床現場で看護を实践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。不合格の3名は次年度に再履修して、改めてしっかり勉強して頂きたいと思ひます。外科・婦人科の講義は外部講師のオムニバスになるため、講義内容や試験の難易度にも差が出てしまいました。次年度はできるだけ統一性を持たせるように努力したいと思います。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護師が業務を行うためには絶対に必要であり、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。</p> <p>とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。</p> <p>疾病学各論Ⅱは、内科疾患の一部、小児科疾患、精神科疾患が範囲です。それぞれの分野の専門家が3名で担当しました。</p> <p>授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数で、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」の割合は疾病学各論Ⅰより低値です。次年度はシラバスに疾病学各論ⅠとⅡが同等に重要であることを強調して、興味をもって受講して貰えるようにしたいと思います。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>期末試験の平均値は67.3点(最高89点)であり、60点未満の再試対象者は11名でした。理想的レベル(80点以上)に到達したひとが5名のみでした。再試で全員が60点以上でしたので、全員が標準レベルには到達していると判断しました。</p> <p>内科の平均点が75.2点、小児科の平均点が77.8点、精神科の平均点が45.4点と著しい差が出ました。試験の出題方法や難易度で統一性を持たせることが次年度の課題と考えています。また、授業の内容からどうしても知識理解を判断する問題が中心になりますが、次年度は(知識をもとに総合的に推論するような)思考判断に関する問題も出題したいと考えています。</p> <p>授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、「少しそうでないと思う」の回答が多く、達成感がやや低いことが推測されました。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。ここの内容を理解していないと、今後の看護学科での勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての仕事の全てにおいて支障を来します。</p> <p>試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPIにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの学習量を見ると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは1割程度でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひと少数派でした。学生さんが興味を持って自ら検索するような課題と出したり、予習復習のポイントを明示するなどを工夫するべきだったと反省しています。 授業評価アンケートの自由記述に記載された配布プリントやマイクに関する意見は、次年度に改善していきたいと思っています。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。 内科、小児科、精神科の3名の講師によるオムニバスであり、講義内容や試験の難易度にも差が出てしまいました。次年度はできるだけ統一性を持たせるように努力したいと思います。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護のための臨床検査	2	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>臨床検査は、診断の確定、重症度の判定、治療効果の判定など、臨床経過の様々な場面で重要な役割を演じています。看護師が検査を行うこともおおく、検査データから患者さんの病態を把握することは看護師に必要な臨床力です。看護師国家試験にも検査に関する問題は出題されます。</p> <p>本科目では、主要な検査項目の意味やデータの解析を説明するだけでなく、心電図、肺機能、眼底鏡、検尿などの演習を行って臨床現場で「現物を初めて見た」と戸惑わないように工夫しました。特に、肺機能と眼底鏡は今年度から開始しましたが、有意義であったと考えています。また、後半の授業では複数の疑似患者の検査データを提示して、そこから病態を把握する方法を解説しました。</p> <p>授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数です。疾病学各論Ⅰに比較すると「資格取得に必要である」「関心のある内容である」の割合が低値です。次年度は本科目の重要性をシラバスで強調したいと思います。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>期末試験の平均値は76.0点(最高100点)であり、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが29名だった一方、60点未満の再試対象者は7名でした。再試では全員が60点以上であり、全員が標準レベルには到達していると判断しました。</p> <p>今年度から試験は教科書の持ち込みを許可し、教科書を見ながら提示された検査データを解析して患者の病態を把握する問題を中心に問題を出題しました。知識理解だけでなく、思考判断の力を評価する問題になったと考えています。その結果、知識(暗記力)を問う設問では高得点の学生さんが、病態把握の設問では点数が低かったり、その逆のケースもありました。知識と思考をバランスよく身に付けていく必要があると考えます。</p> <p>授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、知識理解、思考・判断に観点において「まあそうだと思う」～「かなりそうだと思う」の達成感を示す回答が大多数です。座学だけでなく、演習も行って、皆さんが総合的に勉強した表れだと思います。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。上述のように、臨床検査に関する知識や検査データから病態を把握する力は看護師の業務に不可欠です。</p> <p>試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、GPIにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの学習量を見ると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは三分の一程度でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひと少数派でした。学生さんが興味を持って自ら検索するような課題と出したり、予習復習のポイントを明示するなどを工夫するべきだったと反省しています。 授業評価アンケートの自由記述でも、演習を行ったこと、患者症例を使用して病態把握の練習をしたことは肯定的に評価されています。次年度も継続していきたいと思えます。マイクの音が小さかったことの指摘があり、次年度は注意します。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。 個々の検査に関する説明を行うだけでなく、心電図などの演習を行い、検査データから病態把握する方法を解説したことは学生さんの臨床力を養うために有効であったと考えます。 今年度より試験に教科書の持ち込みを許可して、検査データを解析して病態を把握する問題を中心に出題しました。学生さんの思考・判断の力を評価することが出来たと思えます。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	石井 美紀代、布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健医療福祉行政論	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機について、全員が「必修科目である」をあげている。その他の動機は、極端に少なく、「関心のある内容である」のは8.0%であった。科目の名称から、保健・医療・福祉の制度を学ぶことが想像できるが、学生にとって法律の講義は苦手意識が強い。そのため、「必修だから、単位が必要だから受けざるを得ない」教える方も、教わる方も、どちらにとってもかわいそうな科目かもしれない。</p> <p>毎年、学生の「苦手」を前提に講義内容を組み立てている。中学・高校で学んだ内容から復習し、講義の流れに沿ったオリジナルプリントで解説している。授業評価を見ると、プリントだけでなく視覚教材で説明してほしい希望があるため、教材については次年度検討したい。</p> <p>講義の最後に出席シートに授業の感想等を記入してもらい、記入された質問には紙面にコメントまたは次の授業で回答していた。授業評価では、「講義がわかりにくかった」という記述があった。毎回の出席シートの活用を促し、「わかりにくい」を繰り返さない工夫をしたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成されなかった	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績は、平均点70.3点(標準偏差10.7点)であり、再試験対象は15名であった。成績の内訳は、秀3名、優20名、良35名、可37名、不可7名(うち再試験未受験5名)であった。また、試験の内容によるDP別の達成率は、DP1-2)が71%、DP4-2)が68%であった。</p> <p>期末テスト問題を作成する際、平均点を70点台になるようにしている。今回、平均点はその範囲には入るものの低い点数であった。テストは、記憶だけでは回答できないように、実際に近い事例を使って問う問題があるが、その部分の回答に差が見られた。授業内で実施した事例であったが、グループで事例検討を実施したため授業参加の積極性によって理解の差が出たと考えられる。個々が頑張るために動機づけを強化する必要がある。また、興味をもって学べるように、方法を考えた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP4-2)は、今回、レポート記述の内容で評価した。講義形式の授業ではDP4-2)の妥当性を確保した評価がしにくい。</p> <p>本科目は「看護を学ぶための基礎」に位置付けられており、今後、看護学を学んでいくための基礎知識として欠かせないと同時に、看護師国家試験においても一定数の問題が出題されている。学生の受講動機において、主体的な動機はほとんどと言っていいほど見られない。今後の学びにとって重要な基礎知識であることを、具体的に教示する必要はあるだろう。講義の出席カードに、時々、「国家試験にはこう出る」として問題を載せているが、このような機会を多くして、受講意識を高めていきたい。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による達成度自己評価では、「知識理解」の点数が最も高い。これは、科目の特性として法律や制度の知識を習得することが目的であることと関連する。一方、「技能表現」のコミュニケーション力、表現力を高めることができた」の点数が最も低かった。授業は、ほとんど講義形式で進めたことが要因であると思われるため、来年度はディスカッションを取り入れた授業形態も考えたい。</p> <p>福祉制度の授業では、中学・高校で学んだ知識の復習や福祉問題に関する話題について事前学習してくるため、シラバスの予習事項に沿ったワークシートを毎回準備した。にもかかわらず、1回30分程度の授業準備時間や復習時間が0回、1回が半分以上あった。講義中に事前学習をしている人も見受けられたが、それに対してペナルティーを設けなかったことも影響しているだろう。授業理解のために必要な学習について、学生に納得してもらうよう提示していきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>授業評価の自由記載で「わかりにくい」という意見があった。最後の授業評価でこの言葉を聞くことがないよう、授業展開を再考したい。また、今後、看護学の基礎知識として欠かせないと同時に、看護師国家試験においても多数の問題が出題されている。学生は法律に対しての苦手意識があるが、科目の重要性を説明して主体的に学んでもらえる動機づけをしたい。また、授業のねらい、達成目標、評価基準を共有し、学生自らが学ぶ目標をもてるようにしていきたい。その結果として、知識・理解の達成度が上がる事を目標としたい。</p> <p>教材は、効果的なものを提示できるように、学生の意見を取り入れていきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護学科
氏名	村上 太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
発達心理学	2	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①必修科目ではある(95.6%)ものの、「資格取得に必要である」(5.5%)、「関心のある内容である」(11.0%)といったことから開講と学生の受講動機とに大きなギャップがみられる。できるだけ具体的、そして資格取得のためだけでなく、学生自身が親になったときに少しでも参考になるような内容に重点をくことを今後も考えていく必要がある。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>「到達度自己評価」においては、学生評価の平均値がすべて3点を上回っていた。分布としては、「まあまあそうだと思う」と「わりにそうだと思う」に8割以上の学生が集中していることがうかがえる。学習量としては、授業外での復習は、学生の自主性に任せてはいるものの勧めていた。その結果、復習を度々行っている学生もいた。授業の中で完結できるような内容を心がけていたため、「学習量の評価」としては適切であると考え。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DPからみでの内容的妥当性 本科目は必修ではあるものの、学生が取得を希望している職種とは直接的なかわりがないところだと考えられる。しかし、人間、そしてヒトの発達という問題について考えることは様々な職種においても非常に重要な問題であり、学生も一定の成績をあげていることから、内容的には妥当であると考え。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」に関しては、すべての項目において平均値が3点後半と高い値が示された。とくに、「説明の理解のしやすさ」は平均値が4.0点と高い値であることは評価に値すると思われる。今後もこの水準を落とさないように進めていきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>講義に対する学生の動機付けを維持することは変わらずに課題であると考えられるが、授業内容を工夫していくことが今後も重要である。授業内容、進め方に関しては高い評価を得ていたと思われるので、今後もこの水準を維持したい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	小田日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎学習ゼミ I	1	前期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>日頃より大事にしていることとして、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で主体的に学ぶための基礎的スキル(聞く・読む・書く・話す・考える)を強化・鍛錬する有効な機会となるように努める。 2. 社会人基礎力(前に踏み出す力・考える力・チーム力)の育成・強化を意識しながら関わる。 3. グループ活動を通して、学生が自らを客観視したり、自身の在り方や行動を振り返ったりする機会となるようにする。 4. 他者と良い関係を築くうえで必要となる自らの態度・姿勢・行動について、必要な行動変容につなげられるように支援する。 5. 大学での学習・生活スタイルの確立に向けて、学生自らが問題解決を図る適切な手段・方法を見出せるように支援する。 <p>基礎学習ゼミに係る教員間の共通認識、学修支援の方向性として、上記1～5の点を大切と考えている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>当該科目は「必修科目」(100%)であり、学生は履修せざるを得ない。従って、学生にとって、「資格取得に必要」(2.0%)とも「関心のある内容」(3.0%)とも考えにくく、また、「単位数を確保する」(9.0%)、「GPAをあげる」(3.0%)とした割合も少なかった。しかし、履修後の学生は、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」と回答しており、こうした結果からは、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」とした内容、即ち、知識理解、意欲関心については、「やや達成された」と考えている。また、授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」等のポイントが高かった。このことから、学生の主体的学修を促そうとの教員側の狙いや働きかけは、全体を通して「やや達成された」と判断した。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>科目としての達成度評価は、課題成果(60%)、その他:授業貢献度(40%)による総合評価とした。総合評価のクラス平均は、85.34±5.12点(最高97点、最低68点)で、100名全員が当該科目の履修を修了した。最終成績の内訳は、秀 21名、優 65名、良 13名、可 1名であった。初年次教育の一環として前期に実施している当該科目の性質上、1年生100名中、優以上が 86.0%、良が13.0%、可が 1%の結果からは、本授業の内容妥当性は確保できたと考えている。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>・1年生100名を対象に、10名の教員が学生10名ずつをゼミナール形式で担当し、講義とグループ討議を組み合わせた授業として展開した。講義は、授業8回中の4回、①図書館蔵書検索・データベース及びインターネットによる文献検索方法の教示、②レポートの作成方法、③助産別科生による「命の大切さや性」に関する講義、④「身近なメディアと情報倫理」に関する講義を行った。残り4回はグループ討議の時間とし、最終的には、前述①～④の講義内容やグループ討議の結果を踏まえた「女子大生と性」に関するレポートの作成・提出を課題とした。自由記載の内容から、学生は学習量に関して、「課題で精いっぱい」、「レポートが大変」、「課題以外にやることと思いつかない」など、受身かつ消極的な態度をとっていたと思われた。初年次の学生に大学で学ぶための基礎的スキルを習得させることを目的とする当該科目の性質上、「学習することが特になく」と感じたり、「意欲がない」、「やる気がおきない」、「何をしたらよいかわからない」などと言った学生の反応は、ある意味致し方ないとも考えられる。その一方で、図書館利用(98%)、インターネット利用(92%)の割合が極めて高かったや、「課題をしていて興味があった事柄は自分で調べてみた」、「本を積極的に読んだ」、「興味のわいた分野の本を調べた」、「学んだことをもとに本で詳しく勉強した」などの意見からは、主体的学習者として期待される行動がとれた学生も少なくはなかったことが窺えた。</p> <p>・昨年度に続き、今年度も助産別科との協力・連携の観点から、「女子大生と性」に関するテーマを最終課題としてレポート作成に取り組みさせた。前述「何をしたらよいかわからなかった」、「特にしたいことが見つからなかった」、「レポートの内容が重くてできなかった」等の学生の意見からは、提示したテーマが果たして学生の興味関心意欲を引き出すものとなっていたかについて課題が残った。次年度に向けては、レポートテーマの設定も含めて、基礎学習ゼミ担当者間での再検討を...</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>・科目の最終評価は、課題成果(60%)；具体的にはポートフォリオ(32点)＋課題レポート(28点)の計60点、及び授業貢献度(40%)；具体的にはグループワーク参加度(40点)として、それぞれ観点別評価を取り入れた「評価表」を基に、学生・教員の二者評価による評価を行った。そのうえで、最終評価点は、事前に取り決めた評価基準のもと、ゼミ担当教員10名の合意を得て決定した。実際の成績はクラス平均85.34±5.12点(最高97点、最低68点)で、100名全員が科目履修を修了したこと、また、授業の折々に学生に対して当該科目の「評価方法」を説明していたため、自由記載の内容にも比較的前向きな意見が多くみられ、学生は評価を肯定的に受け止めていると考えられたことなど、学習目標の達成状況は高いと判断した。何より、ゼミ担当教員との良好な人間関係が保持されている点は、特定個人に限らず、それぞれの教員がきめ細かな支援・関わりをできていた成果と考えられることから、今後もこうした関わりを大事に継続していきたい。</p> <p>・次年度に向けての課題は、学習量の見直しと調整が必要と考える。今回、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備」をどのくらいしたかの質問に、「6回」と回答した学生が半数を超え(55人)、「4、5回」とした学生が20人、「2、3回」とした学生も20人で、90%を超える学生が予習に取り組んでいた。また、「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習」をどのくらいしたかの質問に、「6回」と回答した学生が34人、「4、5回」とした学生が29人、「2、3回」とした学生も24人で、87%の学生が復習にも取り組んでいた。予習・復習に積極的に取り組むことは望ましいことであるが、その一方で、予習も復習も全くやっていない学生、即ち、「予習0」が3名、「復習0」は8名もあり、この点は改善しなければならない。学習量が多いことで、学生は「何をしたいかわからない」状態になり、皆のペースに「ついていけない」と感じ、「興味を持っていない」、「やる気がおきない」といった悪循環を生むことも考えられ、学習量の適・不適についての丁寧な見直しとともに「ついていけない」</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	梶原江美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護技術論	1	前期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>看護技術論は、「看護技術における安全と安楽」「コミュニケーション」「記録・報告」「環境」「早期看護実習」からなる必修科目である。学生は、大学に入学して初めて看護について学び始めることになることを意識している。授業の後半部分は、実際の看護活動の場を体験することで看護師の役割を学ぶ早期看護実習を取り入れている。そのため、より充実して学べるよう、看護技術の前提になるものとして、「環境」の単元を設けて、講義以外に療養空間の体験や測定器具を使った環境アセスメント、ベッドメイキングやシーツ交換の演習を取り入れている。この演習では、看護を実践する上での姿勢を養うことも大事にしている。また3月に初めて受け持ち患者を担当して自己の傾向に気づき関わり方を学ぶ基礎看護学実習Ⅰでの学びを充実させるため、「コミュニケーション」の単元でプロセスレコードを取り入れた。入学直後の開講科目であること、実習が含まれているため、学生をできるだけ早く覚えるようにし、些細な不安や相談にも応じるように努めた。</p> <p>学生の自由記載からは、課題が多く追われている感覚を持つ学生が複数おり、初回のガイダンスや課題を出す意味についての説明を丁寧にしていくよう努めることが必要と感じた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績平均値は、80.4±7.8点(60-95)で再試験対象者が0名だった。全員が標準的レベルに達していた。成績の内訳は、秀が6名(6%)、優54名(54%)、良29名(29%)、可11名(11%)と理想的レベルを示す80点以上の学生は、60名と半数以上が占めていた。</p> <p>知識理解に関しての評価としての筆記試験の結果は、平均得点は、60点満点中47.7±7.4点(27-58)と概ね最終成績と連動していた。技能表現および態度については、看護技術演習での演習課題や取組み状況などから評価をしているが、全員が真面目に課題に取り組んでいた。</p> <p>学生による授業評価をみると、知識理解に関する観点では、「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を合わせると85%以上を占めており、知識を修得することに対する評価は高いと捉えている。また、技術習得やコミュニケーションなどの学びについては、70%以上が「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と評価していた。今後は、「少しそうでないと思う」「ままそうだと思う」層を移行させていく必要がある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、看護実践の基本部分にあたる必修科目である。大学入学と同時に学び始める科目であるため、どのように動機づけを高めるかが重要になると考えている。この課題に応えるよう実際の看護活動を知る早期看護実習を位置づけているが、授業を通しての学生の学ぶ姿勢や成績状況を踏まえて、内容的には妥当であるとする。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から技能表現や態度については達成できたと考えている。知識理解については、おおむね達成できたと考えているが、10%程度の学生の知識理解度を向上する手立てが今後課題となってくると考えている。全体を通しての成績をみて内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的に妥当性には問題はないと考え、来年度も授業構成は継続してよいと判断している。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、「学生の質問を何らかの形で受付け、それに答える機会が作られていた」という項目において、若干名(8/100名)がそうでないと回答していたことについて、今後の課題とする必要性があると感じている。授業毎に質問する機会は設けているが、試験に関する質問は、個別に応じていない。学生の公平性を担保するためである。このことは、授業でも説明しているが、学生に伝わっていなかった可能性があるため、今後、試験に関する質問を授業の最終回に受け付けることを事前に伝達するなどして方法を工夫することを考えている。同時に、学生にも「耳を傾ける」「みんなの前で質問をする」ことの重要性と協力をお願いしたい。</p> <p>学習量の評価では、授業の準備や復習についてしていない学生の存在が明らかとなった。シラバスに明示している予習復習が学習のサポートになることを初回ガイダンスや授業の中で伝えていく努力をする必要がある。同時に、学生の自由記載では、技術の自己練習や用語の理解に精力的に取り組む学生の存在も確認できた。これら学生の割合が増えるような促しを今後も継続して行っていきたい。</p> <p>図書館利用について半数以上が活用できていない現状があり、他科目で行われている図書館ガイダンスや文献検索などが本科目でも取り入れられるよう検討する必要性を認識した。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>達成状況の総括的評価としては、前述のとおり概ね達成できていると考えている。</p> <p>課題としては、前述のとおり、科目への動機づけをより高めていけるようにし、限られた教員数や時間の中で最大の効果が発揮できるよう演習や課題の提示、説明を工夫していきたいと考えている。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	飯野英親

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
診療関連技術論	2	前期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機は「必須科目である」「資格取得に必要」の2つでほとんどを占めるが、8%の学生は「関心のある内容」を挙げており、教科書の記述内容よりも臨床現場で使用している安全性の高い製品を購入し、予算の許す範囲で安全性の高いケア関連品を使用して、臨床現場の状況をよりリアルに伝えようとしていた。</p> <p>②27%の学生は全く予習せずに受講していた。講義＋演習の内容が濃密な技術(例えば、静脈採血技術や口腔内吸引・鼻腔内吸引など)があり、準備性が低いと技術演習の展開についていくのが精一杯で、授業だけでは内容の十分な理解には及びにくいと思われる。</p> <p>③本演習は基礎看護技術の範囲であるため、技術提供時の「患者の安全」を最優先した看護ケア提供についての授業展開に重点を置いた。また、侵襲性のある注射針やガラスのアンブルなどを使用するため、学生自身が傷害を負う危険性もある。そのため、技術演習では限られた時間を効率的に使い、緊張感のある雰囲気大切にしている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>100名の最終成績は、平均得点80点で、再試対象者は2名だった。ただ、70点以下の学生が21名いて、その内、技術チェックでも再チェックを受けた学生が4名だった。この技術チェックと学科試験の両方で低調だった4名の学習状況が気になる点である。到達度自己評価のすべて項目で、平均が3.5点以上あり、中でも「専門技術で必要となる技術を身につけることができた」が、最高得点4.0であったことから、本演習の目的は達成されたと考えた。ただ、授業で推薦した看護技術関連の副読書があったが、図書、雑誌を利用した割合が20%程度に留まるため、積極的な学習状況とは言えない。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価では、「専門技術で必要となる技術を身につけることができた」4.0、「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」3.9、「専門分野において的確に判断する力を得ることができた」3.7であったことから、技術演習としての内容的妥当性はあったと判断した。現実的には、国家試験の出題基準に明記された看護技術しか演習で教えていないので、その時点で内容妥当性があると判断している。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本演習は講義1コマと演習2コマの組み合わせなので、本来なら小テストを講義一コマの中に入れて、前回の看護技術の知識確認を行いたいが、実際に講義室から演習室への移動と手洗い等の準備、使用物品の後片付けなどの時間を優先させるため、小テストの配布と回収に要する15分が捻出しにくい。ケア技術提供のデモンストレーションも教員が2回行うと印象に残りやすいと思うが、実際は1回しか時間を確保できない。そのため、本演習で教えるケア技術のデモンストレーション場面をビデオ撮影し、それを要ドットネットで公開することで自学実習を促している。</p> <p>原則的に、空き時間を利用して技術練習を行うように指導しているが、2年次前期は空き時間は少なく、課題を抱えている状況が続くため、自己練習は困難であろうと考える。そのために、通学途中や自宅からでもスマートフォンでビデオ学習できる環境の整備とさらなる充実が必要である。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>授業内容が濃密で展開が早い演習科目であるが、授業の目標は達成できた。ビデオ教材コンテンツを充実させて、授業時間外での補完学習を促すことが必要である。また、一部の学習意欲が低い学生の技術演習で、針刺し事故につながりそうな危険行為、アンブルカット時の自傷行為、ベアを組む学生の技術習得の悪影響が確認できた。学習意欲の低い学生とベアを組む学生の安全性を確保するため、また、手順や原則を理解していないケアを受ける患者役の学生の学習効果を高める・不快感を軽減させるためにも、集中力が欠けて安全意识が低かったり、緊張感が低く傾眠したり、私語が止まらない学生に対しては、事故を起こす前に別枠での演習指導が必要かもしれない。その点が検討課題であり、次年度は改善したい。</p>
------------------------------	---

学科	看護
氏名	小田日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護過程論	2	前期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>日頃より大事にしていることとして、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学科独自のSNS(kaname.net)を活用し、毎時の学修目標、授業内容・進捗を提示し、授業の具体的なイメージ化を図るとともに、講義とグループワークを効果的に組み合わせ、学生の主体的学修を促すようにしている。 2. グループワークの進捗状況と学修到達目標に照らしつつ、講義は、適時に、タイミングよく行うよう配慮している。 3. 授業には視聴覚教材(パワーポイント、VTR等)を活用しているが、学生が自己の責任で授業準備を整えることを習慣づける目的で、授業で使用する教材は全て事前にkaname.netにupし、授業中の資料配布は一切行わないようにしている。 4. 学生の理解度や反応を確認する目的で、毎回、講義の終わりにはメッセージカードの提出を求めている。カードへの応答は、個人に向けてはメッセージカードへのコメント記入により、また、クラス全体に向けては、次週の授業開始時に伝達するようにしている。また、メッセージカードの返却は、原則、次の授業開始時とし、学生との信頼関係を大切と考えている。 5. 学生個々の関心を引き出すように、また、積極的なグループワークとなるように、意図的にグループ間のディスカッションの機会を設け、意見交換を促している。グループ間で相互に刺激し合うことにより、学生個々の動機や意欲が高まり、最後までよい意味での緊張感を維持することができるからである。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>当該科目は「必修科目」(100%)であり、「資格取得に必要」(11.7%)な科目であるため、学生は履修せざるを得ない。従って、そもそも学生にとって「関心のある内容」(7.4%)とも考えにくい。しかし、授業評価アンケートの結果からは、履修後の学生が「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、さらに「自分なりの目標を達成した」と回答しており、この結果からは、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」とした内容、即ち、知識理解、思考判断、技能表現については、「やや達成された」と考えている。また、授業の質評価においても、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」のポイントが高かったことから、学生の主体的学修を促そうとの教員側の狙いや働きかけについても、全体を通して「やや達成された」と判断した。学生の意欲関心という点では、上述 2. kaname.netの利用者数が昨年度を大きく上回っており、特に内容の精選と充実を図った「おさらいテスト」の受験者数は、いずれの回も履修学生数の倍近くに達し、一人の学生が複数回繰り返し受験した様子が窺えた。その一方で、1度目の受験途中で放棄したままの学生が数名いたことから、クラス全体としての意欲関心態度は「やや達成された」と考えるが、課題も残った。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な筆記試験のクラス平均は、72.3±12.48点(最高99点、最低40点)であった。この結果は、昨年度よりも全体で2ポイントほど低く、併せて、学生の理解力、記述力及び説明力についても、昨年度に比べてやや低下しているとの印象をもった。科目としての最終評価は、筆記試験(50%)、個人学習(20%)、学習成果発表(10%)、記録及び学習貢献度(20%)による総合評価としているが、総合評価のクラス平均は、72.5±8.92点(最高94点、最低51点)で、101名中合格者94名、再試験該当者7名の結果であった。なお、再試験該当者7名については、後日、筆記による再試験を実施し、採点の結果、7名全員が合格点に達しており、最終成績の内訳は、秀1名、優24名、良41名、可35名で、101名全員が当該科目の履修を修了した。</p> <p>以上、2年生101名(再履修者2名含む)中、優以上が24.8%、良が40.6%、可が34.7%の結果から、本授業の内容妥当性は概ね確保できたと考えている。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>・学生101名(再履修者2名含む)を対象に、講義・グループワークを組み合わせる授業を展開した。講義はグループワークの進捗状況に合わせて、学習到達目標と照らしながら実施した。グループワーク準備としての事前の課題学習は、多くの学生にとっては自主学習を促すきっかけになったと思われる。図書館利用(72%)、インターネット利用(73%)がそれを物語っていた。その一方で、「課題だけで手いっぱいだった」との意見もあり、学習量については、次年度に向けて再度検討する必要があるかもしれない。</p> <p>・学生の自由記述では、特に、担当教員への意見に、①7名の教員が担当することでの表現の違い、教え方の違いを指摘する意見、②指導内容や方法に統一性を欠くという意見、③特定教員の指導方法に対する不満、④成績評価に対する疑問など、これまでにない辛辣な内容が多かった。</p> <p>①、②について、講義は科目責任者(小田)が全て担当し、教授内容、使用する用語及び「看護過程」に対する基本的な考え方は、できるだけ一貫性をもたせるようにした。また、看護学科SNS“kaname.net”を利用し、各回の授業内容、授業進行、各回の学習目標等を事前に提示し、学生だけでなく担当する教員全員が、本授業での学習到達目標を意識して関わられるように、具体的内容を挙げた。その他、学習支援体制の充実を図るために、月2回程度の基礎看護学領域担当者会議においても、当該授業の進捗状況、グループワーク進行上の問題や課題など、教員間の情報交換を図るとともに、相互に意見交換し、指導の標準化に努めてきた(つもりだった?)。にもかかわらず、学生からは上記①～④の意見が出され、やや困惑している。当該科目を担当して8年目になるが、教員同士、互いに「わかり合っている」と錯覚していたのかもしれない。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>看護学科SNS(kaname.net)の活用、毎時間の学修目標、授業内容・進行の提示、事前学習や「おさらいテスト」の実施、授業前後の予習／復習の強化策など、看護師の思考の基盤となる「看護過程」の理解と「問題解決法」の習得にむけて、視聴覚教材の活用など授業方法の改善を含めて、毎年工夫を重ねながら学生の主体的学修を促す努力をしてきた(つもりであった)が、8年目の授業を終えた今、改めて複数の教員が関わる「演習」の授業としての難しさを痛感している。</p> <p>毎回、教員間の打ち合わせを行い、必要な情報を共有し、「看護過程」の知識・方法の理解を確認したうえで、教員の誰もが同じ方向で担当したグループの学生14～16名の指導に当たっていると考えていた。確かに、担当する学生の準備状況に応じて、学生の理解が進むように、場合によっては、同じ表現、同じ教え方ができない又はしない場合もある。これまでもそうした状況はあったが、それが今回のような批判に繋がったことは一度もなかった。これまでとは“何”かが違ったということなのだろうが、それが“何”だったのかを明らかにしなければならない。次年度以降、当該授業をどうするのか、担当者の交代も含めて検討すべき時期なのかもしれない。</p> <p>クラス全体としての目標達成状況は65%程度であったが、この数字からは見えない学生個別の達成状況が気になる場所であり、何より、教員の指導に対する不信を残した点を残念に思う。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	飯野英親

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護過程論	2	前期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機は「必須科目である」が100%で、「関心のある内容」は12%であったことから、本科目の学習内容にイメージが抱けていない状態での受講だったと考えられる。</p> <p>②そのため、演習のはじめに臨床現場や看護実習での問題解決志向の診療録の重要性とその記録の活用のされ方について、次年度から資料を準備することを検討したい。</p> <p>③2年生になって、初めて行う問題解決(POS)思考過程の訓練なので、細かい記述内容よりも、適切な問題解決の思考過程がなされているか否かに教育の重点を置いている。</p> <p>④前期途中に学生の演習で使用される記録を集めて、正しく思考過程が展開されているかを確認した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>私が担当した16名の最終成績は、平均得点72.3点、最高得点82.5点、最低得点50点で、再試対象者は2名で、その2名は学年でも最下位だった。そのため、自学自習を促して、補足的指導を行うことがより必要だった。毎回、演習時間内で処理できない学習記録量なので、自宅学習が必要な科目であったが、約50%の学生は「1回30分程度の復習」が3回以下であり、0回と回答した学生が7%いた。積み上げ方式の学習のため、学習ステップが遅れると理解が難しくなっていく。理解が難しくなると意欲関心が落ちていく誘因になったと思われる。授業の理解だけですべての自宅学習を行うのは困難で、図書館の書籍・雑誌、友人からの助言などを活用しながら課題を進めていく学生が多いと思われる。しかし、図書館の書籍・雑誌を利用しなかった学生が24%いるので、具体的な参考図書リスト、文献リスト等を事前に配布して、補助的書籍を活用することを強く勧めていくことが必要である。</p>					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」4.1、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」4.0、「専門分野について学びを深めたいという意欲を持つことができた」4.0など、高得点なため、内容的妥当性はあると判断した。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価で、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の項目で、そうではないと回答した学生が8%いた。次年度は、看護過程記録上に現れる学習内容の理解度と進捗状況をフィードバックする回数を増やす方策をとる。また、演習に積極的に参加して、自らが問題解決思考のプロセスを踏んで、自らが考えて自宅学習を行うことで、思考過程の理解と実践の到達度は上がらないことを前提に、授業に参加するように促していく。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>担当した学生の再試験対象者など理解が困難と思われる学生の評価を考慮すると、「やや達成していない」が妥当だと考える。一方で、残り16名中14名は70点以上の最終成績である点は達成状況として評価できる。 次年度は、毎回の演習のねらいを具体的に示すこと、復習課題をより具体的に提示するようにすることをくわえていきたい。 また、記録上の表現については、書き慣れていない段階での教育なので、参考図書などの看護記録の表現例を提示するなどに対応していきたい。</p>
------------------------------	---

学科	看護
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護学概論	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①2年生前期の科目である。学生の受講動機から「必修科目である」98.9%、「資格取得に必要である」が11.4%となっている。看護師課程では必要と考えられていないことがわかる。この時期、保健師課程選択の意思が明確でないこともあり、「関心のある内容である」5.7%と少ないことがわかる。そのため、授業では、学生自身が生活者として公衆衛生の意義を理解し、公衆衛生看護の具体的な活動を身近に感じられるよう教材の工夫を行うこととする。</p> <p>②毎時の授業終了後、授業の理解状況を示す授業コメントを学生に記入してもらい、それらの理解状況を踏まえ次回以降の講義内容を検討する。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は76点であり、再試対象は6名であった。標準的レベルに達した学生が94.2%であった。内、理想的レベルに達したものは42名と、4割の学生が達成した。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては78.5%、思考判断に関しては71.8%、意欲・関心に関しては66.0%、態度に関しては81.9%であった。本科目は保健師課程を志望する学生には関心が高いが、そうでない学生については、意欲関心が低い状況が伺える。授業進行とともに、具体的題材から生活者としての公衆衛生を基盤にした看護活動を学生に講義することにより、徐々に関心が増している状況が、毎時学生が記入している授業コメントからも伺える。知識・理解については、キーワードの理解は多くの学生が理解できたと考えるが、事象を通してどのように思考判断するのかでは、達成されるには課題がある。学生自身が生活者として公衆衛生の意義を理解し、関心を持ち、理解し、思考判断できるよう、次年度にむけて検討したい。</p> <p>学生による授業評価においては、到達度自己評価においては、受講動機における関心の低さに比べ、全体的に関心を示している状況が伺えるが、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」や「職業選択の参考になった」がその中でも評価が上がっている。しかし、授業の質評価の項目において、「説明は理解しやすいものであったか」については、(まったくそうでないと思う・少しそうでないと思う)と理解しづらさを18.2%の学生が感じている。特に、公衆衛生看護の基盤となる理論についての理解については、自由記述の意見や授業コメントからも考えられるので、次年度の課題として検討していきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護実践の基本」の位置にあり、必修科目である。看護師課程においても地域生活する人々の健康を支援していく看護活動として、基盤となる科目である。受講動機からみると、科目の位置付けが理解されていない状況がみえるが、講義終了後、授業評価および試験の結果からも一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 受講動機が明確でないことから、DP評価としては意欲・関心がやや低い状況であるが、知識理解および思考判断の評価がさらに上がることにより、意欲関心が増すことが期待される。</p> <p>これらの結果から内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、すべての項目が3.2から3.6という平均得点であった。教員がねらいとしている授業参加への取り組みについて、半数以上の学生が理解しているが、まだ、学生全員が関心を向ける状況が作れていない。103名の学生が主体的に授業参加ができる授業方法の検討を必要とする。</p> <p>シラバスの活用については、73%の学生が参考にしたことがわかった。今後も本年度より導入しているシラバスの活用を学生と一緒に検討していきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、保健師課程のみが必要とする科目と捉われがちであるが、教育課程においては「看護の基本」に位置付けられており、これからの日本の状況を考えると、地域での生活者への看護の視点は、基盤となる科目である。学生にはカリキュラム上の位置づけの意味等授業開始時に理解を深めるかわかりがさらに必要と考えられる。科目の評価からは、94.2%の学生が標準的レベルに達し、かつ4割の学生が理想的レベルに達していることから学生が達成すべき行動目標は概ね達成できたと考えられる。</p> <p>授業参加については、学生の主体的学習を進めるための課題の提示等、さらに改善を図っていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	竹内 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性看護方法論	3	前期	必修	はい	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機は、「必須科目である」94.7%「資格取得に必要である」11.6%という結果から、3年後期から始まる臨地実習履修のためにも必要な科目であることが動機の理由であることが示唆される。</p> <p>②看護過程演習については、学生が身体面・心理面・社会面の関連性を考えて包括的に対象者をとらえられることを意図して、教科書および独自の関連図を準備して臨んだ。また、母性看護はその特徴からウエルネス志向の看護診断が適しているため、他領域で取り入れられている問題解決志向の看護過程と並行して学習する学生には混乱をきたすことが予測されることを考慮して講義の初めに再度ウエルネス看護診断の概要を説明し、事例を用いて実際にアセスメントから看護診断を行うまでの方法が理解できるよう、講義の節目に情報の取り方やアセスメントの一例を紹介してきた。</p> <p>③母性看護技術演習については、臨床実習において経験頻度が高く、かつ正確さを求められる母性看護技術に焦点をあてて技術演習を行い、臨地実習も視野に入れて沐浴技術テストを計画した。</p> <p>④本科目は教員が助産別科を兼任していることもあり、4月から6月までの短期間の講義である。そのため、看護過程演習では定期的に学生個々にフィードバックを行ったり、技術練習の時間を確保して教員が対応できるように計画的に取り組んだ。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均は77点であり、再試験対象者は1名であった。なお、理想的レベル(技術試験、看護過程演習、期末試験の合計が概ね80以上)に達したものは39名であり、評価項目別に見ると看護過程演習・期末試験において成績の差が目立っていた。</p> <p>目標別にみると、思考判断69.2%、関心意欲79.6%、技能表現98%、態度97%であった。これは、看護過程においては事例の状態を根拠や標準値を用いて正常か否かを判断すること、期末試験でも思考判断力を確認するないうであったことから、これらの理解が十分でなかったことが示唆される。さらに、学生のアンケートから懸念されていたように一部はウエルネス志向の看護診断と問題解決志向の看護診断の違いにことまじく十分理解できないままであったことが伺える。</p> <p>実習に向けて必要な科目であることは理解できていたことから、技術練習や図書館やインターネットを利用して学習にとりくむ姿勢が意欲関心や技術表現、態度に反映されたと思われる。また、自分なりの目標を達成したと実感している学生が90%であったことは評価すべきことであるが、残り10%の学生はそうでなかったという結果も見られている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、「看護実践の応用・展開」に属し、周産期に属する対象者に必要なケアを提供する能力を育成するための必須科目である。学生は一定の成績を収めていることから内容的には妥当性であると考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①母性看護学概論や母性看護方法論については既習しているといってもアセスメントを行うなかで基準値や基本的な知識に関する見直し作業は不可欠であり、不明な点も新たに出てくるであろうと予測できた。さらに、他領域の課題を多く抱えていることから、まとめの時間を確保し教員が質問等に迅速に対応できる環境を整えることで看護過程のまとめ作業も効果的に進むと考えて自己学習の時間を意図的に設けた。しかし、一部の学生からはその効果を疑問視する意見も出されていることから、自己学習中心で組み立てていた講義内容については次年度の課題としたい。</p> <p>②アンケートより、自己学習時間にまじめに取り組んでいない学生がおり、それらの学生に関する教員の対応について指摘されていた。教員の対応も今後検討していくとともに、学生が自主的に取り組めるよう工夫していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>「関心のある内容である」という点については9.5%と低い結果がみられている。本科目で学習する看護過程演習や技術演習は既習の看護過程・母性看護学概論及び母性看護方法論で学んだ知識を活用して取り組んでいかなければならないため、既習の振り返りが重要である。そのためには、関心を持って臨んで欲しいと考えことから、2年生の講義から本科目との関連性を伝えて意識付けを行い、母性看護学の知識をもって臨めるように、看護過程演習の進め方や学生が興味を持って自主的に学習に取り組めるよう講義内容を検討していく予定である。また、教員の配置数や講義スケジュールを変更することは物理的に難しいため、学生の理解を得たい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	東 玲子 新木真理子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人・老年看護学概論	2	前期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>専門教育科目である成人・老年看護学方法論の導入科目として、学生に本科目の位置づけを示し、青年期から老年期にある対象の発達段階の特徴、社会との関連、医療・保健施策、疾患の特徴、成人・老年期の看護の特徴、関連活用理論を俯瞰的に捉えられるように意識して教授した。内容が広範にわたり、抽象的な理論も含まれるため、毎回の授業ではねらいを具体的に示した。授業では、教科書とパワーポイント資料を用い、予習して臨めるように、単元毎に事前に配布した。学生の意識をできるだけ授業内容に引きつけるために、既修の科目や「国民衛生の動向」に関連する部分は学生に発問しながら講義を進めた。対象者とのコミュニケーション方法については、臨地実習でのエピソードを盛り込み、具体的な状況がイメージできるように進めた。抽象的な理論・概念は、理解を促すために、身近な具体例を用いて解説した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均点は75(SD:±11)点、最高点100点で、40名が80点以上であった。しかし、個人差が大きく再試験対象者は17名と多かった。再試験の結果14名は標準圏内に達した。</p> <p>学生の到達度自己評価では、94.5%が「まあまあそうだ」以上の肯定的な評価をしており、5.4%は不十分としている。授業の過程で小テストや発問などで、学生の理解度を把握するように取り組んだが、さらなる工夫が必要と思われる。</p> <p>観点別達成度では、「知識理解」72%、「思考判断」84%、「意欲関心」82%であった。最も重点を課した「知識理解」が他に比べてやや低値であることは検討の余地を残した。</p> <p>以上から、改善の余地を残しているが、全般的には一定の成果が得られており、教育目標は達成できたと考える。</p>					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は専門教育科目であり、必修科目である。成人期・老年期の具体的な看護方法を学ぶための導入科目であり、国家試験に欠くことのできない科目である。受講動機として「資格に必要である」は9名、「関心を持って選択した」は2名と少なく、必修科目であること以外の特別な動機は把握できなかった。最終成績では一定の結果を得ていることから内容は妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 本科目の行動目標として、①成人期・老年期にある人々の特徴、②環境が健康に及ぼす影響、③健康に関わる保健・医療・福祉システムの概要、④成人期・老年期の健康障害の特徴、⑤成人期・老年期の健康レベルに対応した看護方法の特徴、⑥成人期・老年期看護に活用できる理論・モデル、⑦加齢による心身の変化に対応した生活機能、援助の意義と方法をあげ、これらを述べるができるとしている。これを基に3つの観点でみたところ、達成度は「知識理解」72%、「思考判断」84%、「意欲関心」82%であった。最も重点を課している「知識理解」が72%であり、今後、知識・理解を高めるための課題が残ったが、目標はおおむね達成されており、妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の進め方は上記の授業準備で示した課題は到達度評価で示したように、学生の到達度に幅があることである。目標達成が不十分とした学生の到達レベルを上げていく取り組みが必要であった。小テストや発問による理解度の把握や意欲向上に向けての取り組みはしたが十分であったとはいえない。今後は、さらに積極的に取り組み、質問等しやすい環境・関係づくりを心がけ、緻密な支援を行う必要がある。</p> <p>学習の質評価では、各項目の平均値は3.0～3.3であった。特筆すべきものはなかったが、全体として上方移動する努力が必要である。</p> <p>学習量の評価では、予習、復習ともに半数の学生が0回であり、残りの半数が1～3回と非常に少ない。予習・復習を促すための働きかけが不足していたと考える。学生には後期の成人急性期看護方法論、成人慢性期看護方法論、老年看護方法論につながる科目だということを強調し、おおまかな指針と各々の具体的な項目をさらに整理し直し、来年度の講義に臨みたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>・本科目は専門教育科目の成人期・老年期看護学の導入科目である。最終的な成績、観点別到達度ともに一定の成果を得た。また、95%の学生が到達度自己評価で肯定的な評価をしていることから、教育目標は達成できたと考える。ただし、個人差が大きく、「知識理解」領域に課題を残した。この科目につづく各論で強化していく必要がある。</p> <p>来年度は、資料を事前に配布することや小テストなど積極的に取り入れて理解の程度、思考の方向性を把握して、授業に取り組みたい。また、概論は抽象的な概念を解説することも多いため、具体例と結びつけて学生にわかりやすいように講義をしていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	高橋甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リハビリテーション看護学	3	前期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、3年次前期科目で、運動器、脳神経、呼吸器、循環器のリハビリテーションを中心構成しており、既習の形態機能学、疾病論、成人看護方法論(急性期・慢性期)、老年看護方法論と関連する科目である。そのため、既習の科目を想起させながら講義を展開した。また、理学療法士や嚥下・摂食看護認定看護師の外部講師による技術演習を取り入れた。</p> <p>「必修科目である」96.7%と最も多く、他は「資格取得に必要である」6.5%、「単位数を確保する」3.3%と低く、「関心のある内容である」は4.3%であった。本科目は必修科目であり、3年次後期からの実習に向けて取得不可欠な科目であるため、致し方ないとする。さらに3年次前期は、他の科目でグループワーク等が多く、課題が多い。学生は、学習していない理由をみると、他の科目で課題が多いことを述べている。それに対して、「授業で理解できるようにところがけた」と回答した学生もあり、オリエンテーション時に他の科目との調整を行いながら学習していくことを伝えていきたいと考える。「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備」「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習」で0回の学生が28名おり、予習復習の必要性についてオリエンテーションで伝えていく必要がある。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は106名が履修を行った。定期試験平均値は、73.7(±7.7)点であり、再試対象者は、10名で、1名は試験放棄し、9名は合格した。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(80点以上)は、36名であった。そのうち秀は、2名であった。</p> <p>目標別にみると、「知識理解」76%、「思考判断」62%、「意欲関心」98%、「態度」98%であった。「知識理解」や「思考判断」は定期試験で評価を行った。標準偏差をみても、理解している学生と不十分な学生の学力差があると考えられる。特に、運動器や脳神経のリハビリテーションの看護の理解が難しいようである。技術演習の内容が重複する部分もあるため、整理を行い講義内容の工夫を行っていききたい。「意欲関心」「態度」は技術演習で評価を行った。事前課題や事後の学びレポートで評価を行い、真面目に演習に取り組んでおり、理解に繋がっていたと考える。学生の自由記載欄に小テストの学習をしたと回答しており、系統別に小テストの導入も検討していきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」で、看護師国家試験に関連する科目で必修である。定期試験の平均点から考え、内容的には妥当であるとする。しかし、DP3, DP4の配分が多く、3コマの演習で評価が難しいと考える。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から、「思考判断」の達成度が低かった。定期試験において、国家試験レベルの状況設定問題で「思考判断」を評価したが、基本的な理解の不足のために解答できなかった可能性がある。応用する力を付けるために講義の工夫を行っていききたい。</p> <p>③まとめ 以上のところから、内容的妥当性には問題はないが、配分の検討を行う。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価では、すべての項目で「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」で9割を占めているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」15人が「少しそうでないと思う」と回答しており、技術演習での学生参加を企画しているが、グループ間の話し合いが持てるようにしていきたい。</p> <p>先述したように、3年次生は多くの演習科目が重なっているため、なるべく課題を減らした構成にしている。技術演習のための課題を課しているが、それにより、図書館やインターネットの利用に繋がっていると考え。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>概ね目標は達成できたと考え、個人差が大きく、特に思考判断については今後の課題となった。</p> <p>また、DPの割合が技術演習の内容に偏りがあったため、これからの実習に必要な知識の定着のためには、DPの配分を考えていく必要があると考え。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	東玲子村, 山由起子, 新木真理子, 高橋甲枝, 松下 智美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
成人・老年看護学演習	3	前期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、既習の専門基礎科目、看護基礎科目、成人・老年看護方法論などの知識を活用する応用科目である。内容は患者事例を用いた看護過程と関連技術を含む。看護過程演習では、疾病・検査・治療、発達課題など総合的に関連づけながら看護を展開できることを目標に、個人課題をベースとしたグループワークを行い、個々の学生の学習促進と、グループ間での学びの共有を図った。また、患者を全人的に捉えるために、独自に作成した「ゴードンの11パターンに基づく情報分析ガイド」を用いて患者を捉える視点が理解できるように、グループワークの機会や提出された個人ファイル・グループファイルを通して、きめ細かく指導を行った。技術演習では、根拠のある看護援助が行えるよう、既習の知識と結び付けながら解説し、援助技術の意味を考えながら実践できるように指導した。</p> <p>学生評価の自由記載に、課題が多いことを述べていた。本科目は、3年次後期からの実習に備えての科目であり、成人期、老年期の疾病を持った患者の看護展開の思考過程を修得する必要がある。負担軽減についての検討も必要であるが、思考過程のトレーニングとして最低限の課題であるため、科目理解を深めることが必要である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は79(SD±7)点であり、再試験対象者は1名であった。再試の結果、全員が標準的レベルに達した。理想的レベル(80点以上)に達したものは57名であった。目標別に達成度をみると、「知識理解」84%、「思考判断」74%、「関心意欲」81%、「態度」87%、「技能表現」平均84%であった。全体的に、真面目にグループワークに取り組み、提出物も期限通りに提出することができていた。学生の到達度自己評価では、95%以上の学生は肯定的な評価を行っており、一定の成績を収めていることから、教育目標は達成されたと考えられる。</p> <p>約7割の学生は、学習量も確保できており、図書やデータベースを利用して学習行動をとっていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開にあたる科目で、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本をふまえ、成人期、老年期の発達課題と疾病による日常生活の障害に対する看護を学ぶための科目となっている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という回答は3名と少なかったが、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 目標別にみた到達度は、「知識理解」「関心意欲」「態度」「技能表現」は80%を超えており、「思考判断」74%であった。本科目の主要な要素である看護過程の展開は、事例患者の健康状況から看護診断をし、看護計画の立案・実施・評価を行う演習である。その過程は思考・判断を行いながら展開する内容であることから、「思考判断」が78%に関しては、もっと高い水準を期待したい。全体的には、一定の成績を収めていることから、内容は妥当であると考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の授業の質評価では、8割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」と回答しており、平均値も3.3から3.6であり、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が他の項目に比べ3.6と高く、グループワークの成果であると考えられる。</p> <p>看護過程演習は、1グループ6名から7名で17グループで構成し、2～3名の教員が、3～4グループを担当し指導を行った。授業開講前に教員間の指導の統一を図るため、事例検討を行い、共通認識できるようにした。しかし、学生の自由記載に、1名ではあるが、「統一して教えて欲しい」という要望があった。今後は、演習前の検討に加え、演習途中でも教員間の情報交換を行い、調整を行う必要がある。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は「専門教育科目」に位置付けられ、行動目標については、概ね達成できたと考えられるが、個人差が大きく、思考判断については検討の余地を残した。また、3年次後期からの実習に実際に応用していく科目であり、看護師国家試験に関連する科目である。学生の受講動機には、「資格取得に必要である」は7.1%と低く、今後は科目の重要性についても伝えていく必要がある。</p> <p>また、教員間の共通認識の徹底および課題の多さに関しては同時開講中の他の科目との調整も考慮するなど、学生の意見を大切にしたい。</p>
-------------------------------	--

学科	看護
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神看護学演習	3	前期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、後期からの精神看護学実習に直接かかわる科目である。学生が実習をイメージしやすいように事例を多く取り入れ、参加型の授業を展開できるようにした。受講動機は、99%が必修科目であるためであり、後期からの実習を控え、学生はそれなりの覚悟で臨んでいると思われる。</p> <p>②精神疾患と看護の関連や、患者の全体像を総合的に理解できることを目的に精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッズの理論を用い、グループで統合失調症の事例展開を行った。</p> <p>③これまでの実習における学生指導を振り返り、看護過程の記録用紙の改善に取り組み、その記録用紙を実際に使って演習を進めた。学生の柔軟な発想を引き出すためにグループワーク中は机間巡視を助教2名と共に行い、精神看護の個別性について熟考させた。精神疾患の特性からどのような観察やケアが必要になるのか、精神科看護のポイントを事例に沿って解説資料を作成し、学生の理解を助けた。</p> <p>④配布資料は、実習時に活用しやすいようにファイル化させた。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は73.4(±9.1)点であり、再試対象は20名であった。80%が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは34名であり、半数以上がこのレベルに達するとよいと思われる。成績の内訳は、Sが2%、Aが32%、Bが41%、Cが7%、Dが20%であった。</p> <p>目標別に見ると、思考判断に関しては65%、意欲関心に関する問題は70%、態度に関しては75%、技能・表現に関しては80%であった。精神疾患も持つ人の看護の展開、主に統合失調症の事例が中心であったため、イメージがしづらく、これまでの知識を思考判断に応用することが難しいところもあったようである。精神疾患の病態の理解を深めるとともに、精神疾患を持つ人の生活上の支援が想像できるように、次年度に向けて検討を重ねたい。</p> <p>学生による授業評価では、技能表現における自己評価が最も高かった。実習ではコミュニケーション力や表現力が求められるため、グループワークを中心に発表の機会を多く取り入れた結果であると考えられる。課題に対してほとんどの学生がやってきており、図書館の利用率もよく60%の学生が利用していた。知識習得に対する自己評価は高いが、確実に獲得しているとは言えない層が20%ほどいる。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生ははじめに取り組んでいる。臨地実習を意識した授業になるため、課題はやや多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度がやや低かったが、提出物の内容や、発表に内容を省みると学生は積極的に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、グループワークで主に進めたことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかであった」の平均が3.3で他の項目より少し低めであった。最初に説明しておいたが、提出物が多かったこと、発表の機会も多く取り入れたことで、わかりにくくなったのかもしれないので、途中で追加説明が必要であったと思う。加えて、「説明は理解しやすいものであった」の平均も3.3と他の項目より少し低めであった。精神疾患の事例を取り上げて看護過程を展開しているが、疾患の理解が難しいため事例の工夫等を重ねわかりやすい解説にしていきたい。</p> <p>学生の意見として、課題が多くて余裕がないという意見が出ているが、他の科目の課題も重なっているためだと思われる。他の科目との課題の調整が必要であれば行っていきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。精神疾患の病態および看護の基礎的知識を確認しつつ、精神科看護の専門応用へとつなげていかなくてはならない。基礎的知識の確認は、課題を課したうえで、授業に参加してもらい、グループワークでフィードバックしながら、看護の思考過程へ進んだ。グループにおける活発な意見交換や、クラス全体での発表会を通じて、思考判断、技能表現については学生の自己評価も高かった。図書館の利用率もよく、自己学習が進んでいるように思えたが、グループワークの中で十分な学習ができない学生もいたと思われる。次年度は、個別に知識の定着が図れるように工夫しつつ、さらに効果的なグループダイナミクスが発揮できるように授業を進めたい。学生の意見としては、課題が多いことを苦痛に感じているが、実習と国家試験のことを考えると簡単に少なくすることも躊躇される。学生の状況を見ながら進めていきたい。臨地実習への準備および国家試験対策としての知識の整理、思考判断ができるよう、内容の整理を行い、来年度に向けた改善を進めたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	村山 由起子、高橋 甲枝、大塚 和良、財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
救急・クリティカルケア看護学	3	前期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①救急・クリティカルケア看護学は、2年生後期に履修する成人急性期看護方法論の延長線上にあり、特に生命の危機的状況にある患者・家族に対する看護を探究する科目である。近年の臨床現場は、救急・クリティカルケア看護を必要としている状況が増加していることから、その状況が想起できるような授業展開を工夫した。学生の受講動機では、「必修科目である」ことが98.8%と、ほぼ全員の動機になっていた。</p> <p>②救急・クリティカル看護学は、応用となる知識として位置づけられるが、今年度は、学生が理解しやすいよう、看護の概要・場・対象(患者および家族)の特徴や専門職としての役割を説明し、倫理性やチーム医療について解説したのち、生体侵襲反応についての講義へと進めた。</p> <p>③生体侵襲反応の解説の後、アセスメント能力の向上や、必要な処置やケアの理解を目指し、病態に合わせた患者・家族に対する看護について解説した。</p> <p>④講義の終盤では、救急・クリティカルケアの実践が行われるICUについて、集中ケアの認定看護師の講義を1コマ入れた結果、学生の興味関心を高めることができた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は77点であり、再試対象は3名であった。再試の結果、全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは40名であった。目標別にみると、知識理解に関しては79%、思考判断については70%、意欲関心については70%、態度については90%であった。全体的に講義に対して、真面目に取り組む姿勢がみられ、目標達成に反映された。学生による授業評価においては、知識理解の観点、嗜好判断の観点、意欲関心の観点、態度において、あまり差がないことが示された。受講生の104名全員が国家試験を受験する学生であることを考えると、看護形態機能学や疾病学総論・各論との関連性の強化と救急・クリティカルケア看護を想起できるような視覚によるイメージ化についてさらに検討を進めたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置づけられ、看護師国家試験に関連する必修科目である。定期試験の結果から考え、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では、「態度」90%、「知識理解」79%に比べて「思考判断」「意欲関心」は70%であった。クリティカルな状態にある患者および家族の倫理的な問題は、救急・クリティカルケア看護において重要な課題である。事例を使用することで、「意欲・関心」「思考判断」を達成させることに繋がったことから、内容的には妥当であったと考える。今後は、事例の数・状況などを工夫していきたい。救急・クリティカルケア看護領域の主要病態に対するアセスメント・処置・ケアの方法など、最終試験にて思考判断を問っている。平均点の77点から考えて、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価では、8割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」と回答しており、平均値も3.1から3.3であり、概ね評価や質問に対する対応ができていたと考える。 オムニバスの講義であるが、1人の教員で講義をして欲しいという意見が自由記述で見られた。それぞれの専門性に合わせて授業展開を行っているが、今後はさらに教員間の講義内容の調整を図っていきたい。 課題レポートの提出を組み入れているが、半数以上が図書館やインターネットを利用していた。次年度に向けては、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会をより強化するとともに、復習の時間をとれるように課題の工夫に取り組みたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置付けられ、行動目標については、概ね達成できたと考えるが、個人差が大きく、特に思考判断については課題を残した。 また、看護師国家試験に関連する必修科目であることから、受講動機である「資格取得に必要であること」について、来年度に向けて学生の認識を高められるように検討する必要がある。 授業過程を振り返ってみたとき、倫理に関する事例を紹介して説明することはできたが、じっくり検討する時間が取れなかったことから、来年度に向けて改善を図りたい。さらに、救急・クリティカルケア看護学は4年次の救急・クリティカルケア看護学演習の基盤になるため、演習に興味関心を高めることができるような授業展開の工夫を図りたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	東 玲子, 小野 正子, 松下 智美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
緩和・終末期看護学	3	前期	必修	いいえ	102人

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門教育科目で看護実践の展開・応用にあたる科目であり、既修のすべての科目を基盤にしているが、すべての発達段階の人々を対象に、がん・緩和・終末期看護という独自の知識・思考を新たに学ぶ科目である。人の死、死にゆく人の苦しみ、死にまつわる倫理、苦しみに対する援助、自己実現、最新の治療とその対応など、想像しがたい、理解しがたい、回避したいという思いがあることを踏まえた上で、言葉の用い方、態度を慎重にする、難解な内容は平易に、また、DVD視聴を組み込む、具体的な臨床事例を示すなど、科目内容上の順序性を考慮して授業計画を立てた。2回のDVD視聴に関しては、レポート提出を課し、終末期の患者、ホスピスケア、スピリチュアル・ケアに関する考察を促した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は73(SD±8)点、80点以上に達した者は23名で、再試験対象者は8名であった。再試験の結果、標準合格点に達したものは6名で2名は達成できなかった。平均値、80点以上到達者数とも決して十分とは言えない。</p> <p>目標達成度では、「思考判断」「意欲関心」「態度」は80%を超えていたが、最も重点を課している「知識理解」は78%と理想的な達成度には到らなかった終末期看護やがん治療に関する特殊性、およびそれに関する看護は特異な領域でもあり、十分な理解をもたらすに到らなかったと考えられ、今後、授業方法の検討が必要である。</p> <p>到達度自己評価では、90%程度の学生は肯定的な評価であった。しかし、達成できていないと評価している学生は1割弱であったが決して少なくない。途中でこまめに理解度を確認しながら、質問等がしやすい環境・関係づくりを意識しながら学びへの支援を行う必要がある。</p> <p>以上を総合的に評価すると、教育目標は概ね達成されているが、授業への取り組みに課題を残している。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は専門教育科目の中の看護実践の応用・展開にあたる科目で、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本をふまえ、がん患者や終末期にある患者の特徴、看護を学ぶための科目となっている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という回答は4名と少なかったが、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 「知識理解」は78%、「思考判断」「意欲関心」「態度」は80%以上と、目標はおおむね達成されており、妥当であったと考える。しかし、最も重点を課している「知識理解」が78%であり、今後、知識・理解を高めるための課題が残った。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習目標を達成できていないと自己評価している学生が1割前後いたことから、途中でこまめに理解度を確認し、質問等しやすい環境・関係づくりを意識して学びへの支援を行う必要がある。また、ディスカッションや発表の場というような学生の思考を活性化させるような方法が少なかったため、これらを積極的に盛り込んでいきたい。</p> <p>15回講義のうち、予習または復習を行った回数が5回を上まわる学生はおらず、0回という学生がともに3割前後もいたことから、全体的に予習・復習を促すための働きかけが不足していたと考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門教育科目の応用・展開科目ではあるが、新たな概念や思考、難解な治療方法とその対応などを含む科目である。目標は全般的に一定の達成度を得たが、平均点および目標の「知識理解」は楽観できない評価であり、課題を残した。</p> <ul style="list-style-type: none">・毎回の授業に際して、授業のねらいを具体的に示し、難解な内容に関しては多面的な解説をするなど学生の理解を促す教育上の工夫が必要である。・学生・教員間での積極的な意見交換ができる機会（ディスカッション、発表、質問など）を講義内に組み込む。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	石井 美紀代、伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
在宅看護学	3	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機について、97.7%が「必修科目である」をあげている。その他の動機は、極端に少なく、「関心のある内容である」のは4.5%であった。これまで慣れ親しんだ病院内の看護でない在宅の看護であるため、関心を示す材料が必要であることが伺えた。</p> <p>最初の講義で、がんを患った女性の手記を読み、それを受けた学生の感想では、死を受け入れながら生きるということを考え、在宅看護学を学ぶ動機を得ていた。次年度も、科目に関心をもってもらうための仕掛けをしようと思っている。</p> <p>また、各回の授業の導入は、前の回のワークシートからピックアップした学生の「生の声」を使った。出席カードの感想には好評なコメントが得られており、熱心に書いてくれた学生も多かった。自分たちの書いたコメント(感想)から理論を説明するやり方は、学生の興味を引いたと考えられるため、時間が許す限り続けようと考えている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	達成されなかった	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績は、平均点69.3点(標準偏差8.6点)であり、再試験対象は11名であった。成績の内訳は、秀2名、優8名、良47名、可48名、不可0名であった。また、試験の内容によるDP別の達成率は、DP1-2)が56%、DP2-1)82%、DP3-1)86%、DP4-2)が60%であった。</p> <p>期末テスト問題を作成する際、平均点を70点台になるようにしている。今回、平均点が低く、特に、覚えていて欲しい知識(DP1-2))の達成率が56%であった。テストでは記憶だけでは回答できないように、事例を使って問う問題があるが、その部分の回答に差が見られた。授業内で実施した方法であったが、事例が変わると回答できない学生が多く、理解させることのむずかしさを感じた。○×や公式に当てはめることに慣れているため、問い方を変えただけだとまどっているのがわかる。この科目だけでは難しいが、○×を選択する思考過程を、臨機応変に対応できる思考過程に変換させる工夫をしていきたい。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目はDP1:知識・理解、DP2:思考・判断、DP3:意欲・関心を目標にしている。CPでは「看護実践の統合」に位置する。「受講動機」で主体的な受講動機が極端に低かったものの、到達度の自己評価では「職業選択の参考になった」の平均値が最も高かった。看護職の将来像を考えるきっかけになったとしたら、「看護実践の統合」の意味があったと考える。</p> <p>また、図書館の図書や雑誌を利用した学生が6割以上、学術データベースを使った学生が半分以上おり、専門書や最新のデータをみて学習スタイルで臨んでくれたのは、さすがに3年生だと感心した。科目の達成度からみても、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)は80%以上の得点率であった。どの授業内容がこれらの評価につながったのか、検証していきたい。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>在宅看護の対象は、あらゆるライフステージの人で、かつ、あらゆる疾患を持つ人である。既習の看護学の知識を使うことが必要であるため、予習・復習を実施してほしいと考えている。「授業に参加するために30分以上の準備をしたか」で、0回と1回が半数を占めていた。復習についても同様であった。自主学習が難しい分野は課題として提示する方法もあるが、一方で「最後まで課題を出しすぎる」といった意見もある。自発的に学習できる雰囲気はどう作っていくか、今後の課題である。毎回、ミニ演習を作成して思考させ、その内容を次の授業で解説したが、到達度の自己評価で、「力を得ることができた」かどうかでは「まあまあそうだと思う」が、「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」よりかなり多く、学科の平均点より低い傾向にある。課題の内容、講義形式の授業方法を再考して、効率よい授業展開をしていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は「看護実践の統合」に位置する。つまり、各看護学の知識を使って「統合」する科目であるため、在宅看護学の授業だけでわかろうとすると無理がある。そのため、授業ではワークシートを作成し、覚えることより考えることを中心にしていた。ワークシートで得た記述は、次の授業の導入に使いながら説明していった。また、すべてに答えがあるわけではなく、複数の答えが存在することもある。授業評価の自由記載に「ちゃんと説明してほしい」「漠然としてよくわからない」といった記載があるが、明確な答えがない科目の特徴からくる不安とも言える。諸状況によって様々な対応が考えられる場合は、「答えはない」とした上で、コメントするようにしていきたい。</p> <p>最初の授業でシラバスを配布し、単元が変わる時には確認を促したが、参考にしたと答えた学生は半数以下であった。シラバスを確認し、シラバスに書いている予習・復習をして、講義に臨むように動機づけしていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
在宅看護学演習	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>在宅看護学・在宅看護学演習は同時進行であるため、3つのねらいを設定した。在宅看護学と演習の時間を一部組み換えて、ねらい毎に講義 → 関連した演習で展開した。そのことについて、最初の在宅看護学の授業でシラバスを提示し、在宅看護学と在宅看護学演習の関連を説明した。しかし、シラバスの記載を参考にした学生は49%、「あらかじめ授業の計画を立てた」学生は19%であった。</p> <p>最初の講義で、難病で気管切開をされた訪問看護利用者の処置の場面と看護学生へのメッセージを映像にしたものを視聴した。それを受けた学生の感想では、多くが在宅看護学を学ぶ意味についてを考え、学習の動機の一助となっていた。もともと受講動機について、98.9%が「必修科目である」をあげている。その他の動機は、極端に少なく、「関心のある内容である」のは1.1%であった。関心ある学生が少ない状況での授業開始であることを念頭に、授業の導入が必要なことを知らされた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成されなかった		やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>評価は、レポート・ケアプラン・看護過程等の提出物が50%、期末テスト50%で実施した。最終的な成績は、平均点71.8点(標準偏差10.2点)であり、再試験対象は名であった。成績の内訳は、秀 1名、優 25名、良 42名、可 31名、不可 4名(うち、再試験未受験3人)であった。また、試験の内容によるDP別の達成率は、DP2-1)74%、DP3-1)68%、DP4-1)78%、DP4-2)59%、DP5-1)67%、DP5-2)73%であった。</p> <p>講義前半はレポート、後半でケアプラン・看護過程の提出を要求したため、自由記載では「最後まで出さず」の意見もあった。3年前期は看護学各論ごとに看護過程を展開するため、これまでに比べて課題の量は多くなる。学生は締切日から優先順位をつけて課題を実施しており、提出日が遅い課題は後回しで時間配分が難しい。提出を認識していても、完成させるのにどのくらいの時間がかかるか、予想が立てにくかったのだろう。最後の看護過程は未提出が1人、未完成のままの提出が1割以上あった。教員同士で同時進行の課題を考慮しているため、後期の実習に向けてこの関門をクリアしてほしい。</p>
---	---

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目はDP2: 思考・判断、DP3: 意欲・関心、DP4: 態度、DP5: 技能・表現を目標にしている。CPでは「看護実践の統合」に位置する。グループワークを取り入れながら、各自がケアプラン・看護過程が展開できるように、課題の提出は個人個人でできるようにした。達成度の自己評価で「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が最も高く、それぞれのグループ員が協力して課題を作成してくれたことが伺える。</p> <p>一方、DP4-2)「保健・医療・福祉の総合的視野から、健康支援に関わる人々と協働・連携する姿勢を身につけている」の達成率が最も低かった。これは、地域ケアシステムの演習グループワークで、課題はグループごとの提出だったため、個人個人の力を身につけることができなかったようである。法律・制度が苦手なうえ、図式化することが極端に苦手な学生が多く、一人ひとりに力をつけるようにグループワークと個人ワークの工夫をしていきたい。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>演習の初め、介護をめぐる社会問題を考えてもらう手法としてディベートを取り入れた。そのためか、インターネット検索した学生は7割以上、図書館の図書や雑誌を利用した学生が7割以上、学術データベースを使った学生が6割以上おり、専門書や最新のデータをみてくれていた。また、この後、在宅看護学で在宅医療、家族介護、福祉制度などを講義したが、ディベートで調べた内容と一致していたところは興味深く聴いてくれた。</p> <p>その後の演習では、複数回で予習・復習して臨んでくれた学生が7割近くあった。授業時間内に完了しない課題があったからかもしれないが、課題以外で学習に取り組んだ学生が30%(学科平均は21%)あったことは、嬉しく感じた。</p> <p>「解説が足りない」というコメントがあったが、講義中は全体への解説の時間最小限にして、教員と助教4人でラウンドしながら個々の質問に応じる体制をとっていた。教員の担当グループも明示していたが、質問の機会を逃す学生もいたのかもしれない。学生個人個人に目を配っていききたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>ディベートによる介護の社会問題をとらえたことは、時期、手法とも適切であり、同時開講している在宅看護学の理解につながった。しかし、地域ケアシステムについては、在宅看護学での知識を使い演習事例で考える内容であったが、グループワークのみで展開したため、理解できた学生の割合が少なかった。地域ケアシステムの活用は在宅看護特有の視点であるため、全員が理解できるような手法を考えたい。このことよって、DP4-2)の達成率をあげていきたい。</p> <p>主体的な受講動機が低い科目であることを自覚し、科目のねらいを具体的に示していきたい。授業外での課題については、今後も他の科目の情報を得ながら考慮するが、なくすことは難しいため、学生の理解を得たい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	飯野英親

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護マネジメント論	4	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①4年次の選択科目のため、半数の受講動機が「関心のある内容である」だった。また、「教員にすすめられた」が66%を占め、就職後の実務を考慮して受講していたと推測した。</p> <p>②そのため、1単位8コマの授業であるが、授業を受けるための準備として2回以上準備した学生が約半数を占めた。</p> <p>③本授業では、4年次での教育のため、看護師としてのキャリア開発と病院看護師としての組織行動の理解、医療人としてのプロフェッショナル意識の向上を重んじた教育内容に重点をおいている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された		やや達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>私が担当した9名の最終成績は、平均得点87点で、再試対象者はいなかった。毎回、講義時間内で処理できる教育内容で構成し、自宅学習を課さないで理解できる範囲で構成したのが、高得点につながったと考える。また、「関心のある内容」を理由に受講していた学生が半数を占め、動機付けが高かったため、学習にも精力的に取り組んだ結果も考えられる。4年生の就職活動時期に重なるため、自宅学習が必要な準備を課さなかったため、図書館利用やインターネットの情報検索は「利用した」のは1名に留まった。予習・復習を全くしなかった学生は4名だけで、残りの5名は予習・復習を行っていた。到達度自己評価で「(7)必要となる技術を身につけることができた」が全体的に低かったが、授業内容を考慮すると致し方ないと考える。一方では、「(9)職業倫理や行動規範について学ぶことができた」で高い評価だったのは、組織行動やプロフェッショナル意識の向上を意識した講義内容だったため、成果があったと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>「関心のある内容」を理由に受講していた学生が半数を占めたため、関心意欲は高い学生だったと考える。臨床現場の管理内容を具体的に説明したことも、関心意欲を高めることにつながった。感想の「履歴書の作成や面談に役立った」というコメントから、医療職の採用試験面接で有益な態度についても、教育の成果があったと考える。また、「働く上で考えなければならぬことを学んでおいてよかった」というコメントから、職業準備教育としての内容が理解されたと判断した。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価で、期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった項目で、そうではないと回答した学生が8%いた。次年度は、看護過程記録上に現れる学習内容の理解度と進捗状況をフィードバックする回数を増やす方策をとる。また、演習に積極的に参加して、自らが問題解決思考のプロセスを踏んで、自らが考えて自宅学習を行うことでしか、思考過程の理解と実践の到達度は上がらないことを前提に、授業に参加するように促していく。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>関心が高い学生が受講し、少人数の受講者であったため、達成されやすい授業の展開だった。今後の課題は、受講者数の確保である。就職の採用試験と重なる時期なので、授業を通して就職試験に有益な教育内容を広く伝えたいが、4年次の前期は臨床実習が進められている時期のため、受講者数が大幅に増えないと予想される。次年度は、看護管理の領域の国家試験過去問題を小テストで行って、受講することで前回の知識確認と同時に、国家試験対策にもなるような工夫をしたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護研究の基礎	3	前期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①4年生になって、全員が看護研究演習を目指すわけではなくなっていることに加え、科目名から何を学ぶかをイメージしにくいことが課題の一つとしてあげられる。今回の受講動機をみると「必修科目である」99%、「資格取得に必要である」7.8%、「関心のある内容である」3.3%という内訳であった。授業の中で関心を引き付けることは大きな課題である。</p> <p>②3 年前期の講義で各論実習を経験していないため、学生は看護研究の必要性や研究課題への気づきが難しいようであった。そのため、看護臨床の場を想定した説明に留意し、看護職に研究的思考が必要であることへの気づきを促した。難しい・苦手というイメージが強いようなので、できるだけ解りやすく平易な言葉を用い授業を進めるように心がけた。</p> <p>一人一人に研究論文を検索し読ませた。最終的に研究計画書の作成ができるように、グループ毎に担当教員を決め、グループワークを密に支援した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は75.7(±7.2)点であり、再試対象は3名であった。97%が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは32名であり、半数以上がこのレベルに達するよと思われる。成績の内訳は、Sが3%、Aが29%、Bが59%、Cが7%、Dが3%であった。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては70%、思考判断に関しては70%、関心・意欲に関しては70%、態度に関しては90%という結果であった。研究というものに対する関心がとても低いところからの出発であるが、患者のために看護研究は必要であることが理解できると、自分たちの興味・関心のある中から研究課題を見つけようとしていた。臨地実習からは1年以上離れ、課題を見つけるのも容易ではないため、課題発見へ次年度にむけて検討したい。</p> <p>学生による授業評価において、もっともよかったことは、図書館の利用が90%以上であったことである。文献検索をして文献を読み、文献カードを作成する。この一連の作業は、知識確認、思考判断とつながっていく。文献をもっと読むことでこの能力は高められ、研究計画書もより良いものに仕上がる。しかし、学生は一つの論文を読むことで精いっぱいというようであった。もっと文献を読むことができるようにし、研究に関心を持つ学生が増えるように内容を検討していきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門応用科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。しかしながら領域実習に出ていないので、看護における研究の意味や必要性がわからないままという学生が多い。授業の中で、看護における研究の必要性を理解していく中で、研究の面白さに気づく学生も出てくる。研究をやってみたいという学生も少なからず出てくる。領域の実習に出る前の時期に研究的思考を身につけることができるため、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断、関心・意欲、態度に関しておおむね達成された。グループで研究課題を考え、教員の指導のもと、一つの研究計画書を作成することができた。初めての取り組みであるため、グループ活動は効果的であったと思われるため。内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.1とやや低かった。15コマの中に講義と演習を入れているので、講義内容が盛り沢山になってしまったと思われる。知識を定着させるような課題の出し方の工夫が必要だったと考える。次年度は、限られた時間の中で教授内容を検討し、わかりやすい説明を心掛けたい。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均は4.0と高かった。グループでの意見交換は十分にされたのではないかとと思われる。次年度は、思考判断がより反映される様な研究計画書の内容の充実を図りたい。</p> <p>学生の意見として、他教科の課題が多く忙しかったという意見が多数寄せられた。臨地実習に直接かかわる科目ではないために、学生の優先順位としては低くなるようである。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>看護職にとって、研究的思考を持つことは患者のためにより良い看護を行うために必要なことである。しかし、3年生前期の学生は、後期からの領域実習のことで頭がいっぱいである。本科目の重要性を学生に認識してもらい、担当教員は適切な指導を行わなくてはいけない。実際に研究計画の指導に当たる教員は、興味があわくように指導をしていただく予定である。</p> <p>研究が初めてである学生がほとんどなので、研究アレルギーにならないように支援したい。研究計画書の作成ができるように、グループ毎に担当教員を決め、グループワークを密に支援したが、もっと研究論文に触れさせる機会を多くつくるなど、学生が研究に興味を持てるように授業改善をする必要がある。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	飯野英親

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①看護総合実習との関連性で展開するため、急性期病院の看護管理に関する教育内容に特化している。 ②私が担当した7名の4年生に関しては、自宅課題は正確に行い、学習進度に合わせて準備性は高かった。 ③演習科目の自由記述に「ゼミによって国試対策の方法が違い…」というコメントがみられたが、授業目標からも国家試験対策を行う授業でないため、適切でない。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された		達成された	達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>7名の最終成績は、平均得点84点で、再試対象者は0名だった。看護管理に関する医療安全、感染対策、地域診療連携、病棟管理に学習が中心だったが、看護総合実習に有益な事前学習も進み、実習計画が予定どおりに整った。とくに、今年度から2週間の実習になり、そのため準備する量が増えたが、KYTトレーニングやMERS感染症に対する学習など、文献や官公庁のインターネット情報を利用して適切に準備できた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>4年生全体の到達度自己評価では、「専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」3.8、「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」3.7、であったことから、演習全体としての内容的妥当性はあったと判断した。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本演習は1回の演習で2コマを使いながら運用した。</p>
---	---------------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>就職の採用試験と重なる時期であり、同時に前期は臨床実習が進められている時期であるため、7名全員の出席を調整するのが困難だった。そのため、欠席者にはメールでの報告を行ったが、細かい指導内容が欠席者に伝わっておらず、実習計画の修正を余儀なくされた点もあった。現実的に、臨床実習の看護記録を抱えながら、本演習の資料を作成するには学生への負荷が大きいため、自宅課題を課すのは難しい。臨床実習が組まれていない学生を中心に、看護総合実習の準備を整えていくが、欠席する学生の意見や希望する総合実習の内容を、どのように反映させるのかは課題である。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ウィメンズヘルス看護論	3	前期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①3年次前期の選択科目である。2年次後期に母性看護概論の必修科目を修了したものが履修している。受講動機をみていると、18名中9名が「関心のある内容である」、8名が「単位数を確保する」、2名が「教員にすすめられた」その他1名であった。母性看護に興味関心をもつものがより深く学修できるように内容・方法の検討を行ってきた。</p> <p>②科目に関する詳細の検討が不十分な中、前年度初めてこの科目がスタートした。2年次に母性看護学概論・母性看護方法論が必須科目であるため、学生が興味関心のある女性の健康に関する課題を選択させグループディスカッションによる女性の健康問題を一つ絞り込み実施したが、グループダイナミクスを十分発揮できず目標到達に至らなかった。その課題を検討し、自己課題として個人ワークとして担当教員を決定し主体的に取り組む方法に変更した。</p> <p>③最終8コマ目にプレゼンテーションを入れ、担当教員間で情報交換しテーマ別に数名の学生を選定した。プレゼンテーションを行うことで全体の共有の場とする。これらについてシラバスを一部修正し、取り組んだ。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	成績の平均値は75.9(±7.9)であり、再試対象0であった。標準レベルである「女性の健康を様々な視点から捉え、自分の興味、関心、意欲のあるテーマについてレポ					
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	桑野嘉津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ボランティア活動論	1	前期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①ボランティアについて学ぶ意義を理解できないまま受講している学生が多く、学ぶことへの動機づけが大きな課題である。今回の受講動機をみると「関心のある内容である」が53.3%に留まったことはこのことを示唆するものであった。できるだけ身近な事例を挙げて、関心を引きつけるようにしている。</p> <p>②昨年度までと同様、授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。ほとんどの学生がこれまでに学校などでボランティア体験をしているが、新聞を週1回以上読む学生は5.3%に留まっているため、社会の情勢や地域の課題について関心を持つためにボランティアに関する記事を探し感想を書くことを課題とした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は77.7点であり全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(80点以上)に達したものは11名と、まだまだ限られていた。身近なボランティア活動について調べ資料を作りプレゼンテーションをするという課題、ボランティアに関する記事を探し感想を書いて提出するという課題、各自でボランティアを实践し報告書を提出する課題については全員が達成、レポートの内容についても全員が標準レベルに達した。</p> <p>目標別に見ると知識理解に関しては学んだことを口頭発表やレポート記述で自分なりにまとめることが出来ていた。</p> <p>意欲関心についてはそれぞれの課題について全員達成したことは、今回の受講動機をみると「関心のある内容である」が53.3%に留まったことから考え合わせると評価できるのではないかと考える。要求された量以上の課題を提出するなど意欲的に取り組んだ学生がいた反面、課題提出だけに終始し内容を深めることが困難だった。</p> <p>学生による授業評価においても、知識理解の観点と思考判断の観点での自己評価に差が表れている。次年度に向けての課題として検討したい。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は選択科目であるが授業準備の欄で指摘したように「単位数を確保する」ために受講した学生も多く、動機付けに苦慮する面があるが、課題を工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 それぞれの課題について高い割合で達成したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>毎回のねらいを具体的に示すことで学びの意義を明確にしていきたい。 8回の授業の中で学生自身がじっくりと考え話し合う時間や質問の時間を確保することが十分ではなかった。授業の終了後に質問に来る学生もいたが、毎回のレポートのなかに質問の欄を設けることで、質問に答えるよう工夫したい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>ボランティアの学びは技術向上や資格習得など学生の成長に直結するものではないので動機付けに苦慮する面があるが、日頃の学生生活の課題と結びつけることで身近な問題としてとらえ、看護師として積極的に社会に貢献しようという意欲に繋がるように工夫していきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	布花原明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地区活動論	3	前期	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>保健師課程必修科目である。受講動機をみると「必修科目である」83.3%、「資格取得に必要な」33.3%と2つの数値に差があること、「関心のある内容である」5.6%と、保健師課程必修科目であることが主な受講動機であり、教科目への関心が低い状況が明らかになっており、具体的な地区活動事例を教材として用い、関心を高めるようにしている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は82点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは15名と、ほぼ達成された。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては83.5%、思考判断に関する問題は65.0%、課題発表を通しての関心意欲(100.0%)、態度(100.0%)であった。思考判断では、基本的な知識を用いて、事例の情報収集、アセスメントを行い、健康課題を解決するためにどう判断するかを問うものであり、地区を対象とした保健活動をイメージし、保健師の役割や活動方法を判断する力の獲得が課題であり、次年度の検討課題としたい。情意領域の面では、授業時間外の学習時間の確保として、図書館での文献や雑誌(61.1%)、学術データベース(38.9%)及びネット検索(77.8%)の活用がなされており、課題発表においても学生らの意欲、態度は積極的であった。今ただ、課題以外の学修を行った者は22.2%に留まり、その理由の多くは、他教科目の課題が多く時間に余裕がなかったことがあげられていた。次年度は、興味関心が広がるような課題学習テーマを検討することが課題である。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 受講動機で最も多い「必修科目」「資格取得に必要な科目」にもある通り、本科目は「専門応用科目」のなかでも、「公衆衛生看護関連科目」に位置づけられており、保健師課程の必修である。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 保健師国家試験科目であり、学生の授業に臨む姿勢は真摯であり、自己評価で高い項目は、「職業選択の参考になった」、専門分野に対して「的確に判断する力」「学びを深めたいという意欲」であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。成績評価から思考判断の達成度が比較的低かったが、学生自己評価では、知識理解と思考判断との差はほとんど見られず、学生に思考判断の意図が伝わらなかった可能性があるため、授業方法の改善として課題のフィードバックの方法を検討することが次年度の課題である。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」(平均3.7)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け、それに答える機会がつくられていた」(平均3.6)が高かった。地区活動事例を複数取り上げて、事例検討を重ねたことが反映されていると考えられた。しかし、「説明はわかりやすかった」では平均3.0と最も低く、事例検討後の補足説明等が不十分であったと推測される。次年度に向けては、事例を検討し発表後に、教員から説明を補足し確認する等の時間を確保し、学生の理解が深まるように検討していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門応用科目のなかでも、保健師課程に位置づけられる本科目の特性から、看護師課程の基礎的知識を土台に、公衆衛生看護学の基本的知識と思考判断を修得する科目であるが、思考判断の面では教員側の評価と学生側の自己評価とのギャップがみられた課題を残した。この点は、4年次「地区活動論演習」科目での補強を行い、講義演習科目と連動させて対応していく予定である。 授業過程では、事例を検討する場合には、発表後に不足する視点等があれば、教員が説明する時間を十分に設けてフィードバックすることで改善を図りたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	布花原明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護技術演習	4	前期	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>4年生後期に控えている「公衆衛生看護学実習」に必要な看護技術を修得する演習科目であるため、事前に、実習施設とも連絡調整を図り、技術方法の選択やテーマを具体化させて課題事例を準備した。受講動機をみると「必修科目である」100%に対して、「資格取得に必要である」29%と、保健師資格取得に必要な看護技術との認識が低いことや、また、「関心のある内容である」では21%に留まり、受講動機の弱さをふまえて、関心・意欲を引き出すようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>最終的な成績の平均値は81点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは13名と、概ね目標は達成された。</p> <p>目標別に見ると、思考判断の達成は76%、関心意欲では97%、技能表現では79%、態度では100%であった。思考判断では、与えられた課題を解決する際に、事例(個人・家族及び対象集団)の特性をふまえて、基礎的知識をどのように応用するかを判断することや、多様な援助方法がある中で、利点、欠点をふまえて適切な方法を選択することを問うものであり、とくに前者の判断にあたって知識の活用が十分ではなかったと考えられる。学生の達成度評価からは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」で平均値は最も高く(3.8)になっており、演習により、改めて必要な知識が不足していることに気づきそれらを獲得しようとしていたことを示している。それは、図書館の利用状況に関して、いずれの項目も12名(67%)以上を占めていたことから伺える。</p> <p>また、技能表現では、学生が事例に必要なだと判断した看護技術を実施できるかを問うものであり、グループによって達成状況に若干差がみられたが、それは授業時間外に行う技術練習時間の確保状況が反映されていると考えられた。</p> <p>また、受講動機のなかで、「関心のある内容である」は21%に留まっていたが、学習到達度の自己評価から、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値3.6と他項目と比較して高得点となっており、受講後に意欲関心が向上したことが推察された。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。2年生後期の「公衆衛生看護技術論」で修得した知識に基づいて、提示された事例について課題解決のPDCAサイクルを展開する演習科目である。開講時期が4年生前期であり、看護師課程の必修各論科目の全単位を(看護総合演習・実習を除く)終えた時期である。履修者は保健師課程学生のみを受講であり、実習に向けて動機づけは高いと思われるが、看護師課程学生が国家試験対策に着手し始める時期に、開講される科目であることから、モチベーションの維持に苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的低かったが、学生自身は(2)に述べたように、思考判断するために必要な知識を獲得できたと感じており、両者に若干のズレが生じている可能性がある。授業の質の評価では「評価基準の明確化」では、18名中17名は肯定的評価であったものの、より共通認識をもち達成状況を確認することができるよう、次年度は検討が必要であるが、この点は方法的妥当性の問題である。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」(平均3.8)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け、それに答える機会がつけられていた」(平均3.8)が高かった。授業では、事前に学生が準備してきた課題をもとに、担当教員とのディスカッションし、追加修正を行う時間に宛てるように計画しており、授業課題以外に具体的に取り組んだ学習に関する自由記載では「授業準備のために毎日、事前に学修を行った」学生もあり、授業形態は概ね問題はないと思われる。しかし、「説明はわかりやすかった」では平均3.1と最も低く、事例検討後の補足説明等が不十分であったと推測される。次年度に向けては、事例発表後に、教員からのフィードバックの時間を増やし、十分な説明を行い、学生の学びが深まるように検討していきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門応用科目の主要科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の活用については概ね達成できたが、思考判断及び技能表現では課題を残した。この点は、公衆衛生看護学実習までの授業外時間で補強することによって指導を継続していく予定である。 本科目は今年度解説科目であり、昨年度との比較はできない。 しかし、授業過程を振り返りから、事例を検討する時間をとることができたが、発表後のフィードバックとさらに検討を加える時間は全て授業時間外での自己課題となったため、次年度は授業計画の改善を図りたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	布花原明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地区活動論演習演習	4	前期	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>4年生後期に控えている「公衆衛生看護学実習」に必要な地域アセスメント技術を修得する演習科目であるため、実際の実習地域の人口統計・健康指標データ等を用いて、各実習施設の情報収集・アセスメントを行えるよう情報ソースを確認し準備した。受講動機をみると「必修科目である」60%に対して、「資格取得に必要な」73.3%と、保健師資格取得に必要な内容であることへの認識の低さが伺える。また、「関心のある内容である」はおらず、受講動機の弱さをふまえて、関心・意欲を引き出すようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は78点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは15名と、まだまだ限られていた。</p> <p>目標別に見ると、思考判断に関する問題は76%であった。思考判断では、地域アセスメント課題について、健康指標の知識を十分に応用して、実際のデータを読み取るか、また、経年的な見方や他との比較の仕方など、応用した思考判断を問うものであり、基本的な知識の応用が十分ではなかったことを示している。学生による授業評価においても、「的確に判断する力を得ることができた」平均2.7、「自分なりの目標を達成できた」平均2.6と他項目より低く、思考判断の観点での自己評価が低い傾向が示された。これは、今年度初めて開設された科目であり、科目範囲での地域診断の達成目標レベルの設定が高く、学生の進捗に応じて計画の一部を余儀なくされたこと、残された課題は、実習までの課外学習に加味されたことが、学生の達成感を低くさせた可能性がある。次年度に向けて、限られた時間内に、基本的な集団の健康指標を読み取る力を修得できるよう、内容項目の厳選が課題である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。3年生前期の「地区活動論」で修得した知識に基づき、実習地域を対象として、地域診断を行う演習科目である。開講時期は実習施設が確定した4年生前期であり、履修者は保健師課程学生のみ受講である。実習に向けて動機づけは高いと思われるが、毎回、課題学修内容をもとに演習を進めるため、授業外の学習量も多く、また実習に向けた演習科目が2科目同時に進行することもあり、モチベーションの維持に苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的低く、学生自身も(2)に述べたように、思考判断の力は獲得できたと感じている学生は少なかった。授業の質の評価では「評価基準の明確化」では、18名中16名は肯定的評価であったものの、より共通認識をもち達成状況を確認することができるよう、次年度は検討が必要であるが、この点は方法的妥当性の問題である。また、本科目は集中講義のため、学修期間に応じた課題達成レベルの再検討が必要である。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.0、また、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた」平均点3.8と高く、参加型演習による授業の進め方は、学生も、その効果を認識することができていると考えられた。また、地域診断の主要な情報ソースはインターネット上に公開されているデータであるため、図書館及び情報室の活用率が高く課題学習を行っていることが把握できた一方で、学習量に関する学生の意見として、18名中5名が「課題量が多く、時間的な余裕がなかった」と自由記載をしており、次年度は4. にもあげているように、演習内容項目の再検討が課題である。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門応用科目の主要科目にあたる本科目の位置づけから、思考判断では課題を残した。この点は、公衆衛生看護学実習までの授業外時間で補強することによって指導を継続して、実習開始までに整えた。 本科目は今年度解説科目であり、昨年度との比較はできない。授業過程の振り返りから、集中講義の時間割によって、実習開始までに必要な地域診断の内容と、演習時間内に達成可能な課題のレベル選定の見直しを行い、計画的な進行が課題である。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	一期崎直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康相談活動	3	前期	選択	いいえ	1

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は、選択科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得としては、必修科目である。学生の受講動機として「関心のある内容である」と答えている。その理由として、2年次の「養護概説」の授業等で、養護教諭の行う健康相談の必要性を理解していることがあげられる。</p> <p>3年前期科目であり、看護および教職の授業の基礎的な学習については習得している。そのため、授業構成は、健康相談の基本的な知識を身につけることだけでなく、既習した学習内容を考慮し、演習を多く取り入れる構成とした。学生に主体的に取り組んでもらうために、1コマの授業毎、学生は、事前学習で提示された課題について意見等を記入し授業に参加、授業でその資料を基に発表し討論する。また、授業の約半分の時間を演習にあてる授業構成とした。そのため、学生に事前準備の方法、授業時間内での学生の取り組む内容について説明した。必要に応じてその進行についても学生の反応を見ながら検討した。また、学生の人数が少ないため、上級生に授業参加協力を得てロールプレイに参加してもらうなど工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された			達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績結果については、個人が特定されるため示さない。しかし、概ね理想的レベルに達していた。DP目標別にみても、思考判断・技術表現の両方とも、ほぼ目標に達成していた。</p> <p>学生における授業評価 学生の到達度自己評価では、「専門分野について、学びを深めたいと意欲もつことができた」「職業選択の参考になった」について、「かなりだろうと思う」と答え、他の項目は「わりとそうだと思う」を中心に4.1点であった。評価の中で「技術を身につける」という項目のみ「まあまあそうだと思う」というどちらかといえば低い評価項目であった。これらのことから、学生は、ほぼ学習目標に到達したと感じていたとらえる。</p> <p>「学習量の評価」の予習・復習は、30分以上が6回以上であった。毎回取り組む課題を設定し、それを学生は実践していた。しかし、それだけでなく、課題以外の学習についての自由記述に「新聞などを読んで考える機会を設けた」とあるように、学生は社会一般の知識の必要性を理解し前向きな行動にうつっていた。「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」については、全ての項目において、シラバスを参考にし図書やホームページを利用していた。参考となる資料についてシラバスに提示し、必要に応じてダウンロードして使用することがこれらの利用につながったと考える。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP、カリキュラムマップからの位置づけからみても内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」であり、教職課程の養護教諭一種免許状取得のために必修科目である。学生の看護および教育における履修済み科目が基礎になる。今までの既習内容については、学生に授業内で確認しながら進めている。目標到達度や成績から、内容的には概ね妥当であると考えられる。</p> <p>② DP、行動目標からのみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断および技術表現の達成度は高いと考えられる。さらに、学生の技術向上に向けて内容を検討していきたい。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質の評価」は、4.8点であった。「学習量の評価」も、前述したように自己学習に取り組んでいた様子が伺える。「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」も利用していた。人数が1名であったため、話し合い活動といった同級生同士で思考を深化させる点において、学生が物足りなさを感じていたと考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>養護教諭免許取得に関する主要科目の位置づけにあり、概ね目標を達成していたと考える。しかし、技術の向上という点においては、授業内だけで簡単に身につくことは難しい。日頃の研鑽に結びつけることが必要であり、自由記述に「新聞などを読んで考える機会を設けた」という前向きな姿勢がみられたことは望ましい結果と考える。さらに4年次の実習前後の指導と結び付けられるよう授業内容を検討し改善を図りたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	松本 裕司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	やや達成された					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	中島俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>より良い社会の建設は教育の成否にかかっています。良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むことを学生に強調しています。教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出るだけ厳選して授業に臨みました。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>定期試験の内容を見ると、良く書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる) 授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>言葉による講義だけでは学生の集中力が続かないことは経験上理解しているので毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。これは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性を体現している現代の学生のニーズに対応して討議方法の工夫などさらなる工夫をしていく必要性を痛感している。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	看護
氏名	松本 裕司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	やや達成された					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
ターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。